

インストールガイド

iPlanet Messaging Server

リリース 5.0

816-0637-01
2001年3月

Copyright © 2000 Sun Microsystems, Inc. Some preexisting portions Copyright © 2000 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

Sun, Sun Microsystems, Sun ロゴ、iPlanet、および iPlanet ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国またはその他の国における商標または登録商標です。Netscape および Netscape N ロゴは、Netscape Communications Corporation の米国またはその他の国における登録商標です。その他の Netscape ロゴ、製品名、およびサービス名も Netscape Communications Corporation の登録商標であり、その他の国で登録されている場合があります。

Federal Acquisitions: 商用ソフトウェア -- 政府のユーザは、標準ライセンス条項の対象となります。

本書に記載されている製品は、使用、複製、配布、および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて配布されています。製品または本書のいかなる部分も Sun-Netscape Alliance およびライセンス許可者の書面による事前の承認がない限り、いかなる手段によるいかなる形式においても複製は禁止されています。

本書は「無保証」で提供されており、すべての明示または黙示の条件、表現、および保証は、黙示の商用性、特定の目的への適合性、または非侵害を含め、そのような否認が法的に無効である場合を除き、否認します。

Copyright © 2000 Sun Microsystems, Inc. Pour certaines parties préexistantes, Copyright © 2000 Netscape Communication Corp. Tous droits réservés.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo, iPlanet, et the iPlanet logo sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et d'autre pays. Netscape et the Netscape N logo sont des marques déposées de Netscape Communications Corporation aux Etats-Unis et d'autre pays. Les autres logos, les noms de produit, et les noms de service de Netscape sont des marques déposées de Netscape Communications Corporation dans certains autres pays.

Le produit décrit dans ce document est distribué selon des conditions de licence qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution et la décompilation. Aucune partie de ce produit ni de ce document ne peut être reproduite sous quelque forme ou par quelque moyen que ce soit sans l'autorisation écrite préalable de l'Alliance Sun-Netscape et, le cas échéant, de ses bailleurs de licence.

CETTE DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT", ET TOUTES CONDITIONS EXPRESSES OU IMPLICITES, TOUTES REPRÉSENTATIONS ET TOUTES GARANTIES, Y COMPRIS TOUTE GARANTIE IMPLICITE D'APTITUDE À LA VENTE, OU À UN BUT PARTICULIER OU DE NON CONTREFAÇON SONT EXCLUES, EXCEPTÉ DANS LA MESURE OÙ DE TELLES EXCLUSIONS SERAIENT CONTRAIRES À LA LOI.

目次

本書について	7
対象読者	8
前提条件	8
本書の構成	9
表記規則	10
等幅フォント	10
太字等幅フォント	10
斜体	11
角括弧	11
コマンドラインプロンプト	11
関連情報の参照先	12
本書のオンラインの参照先	12
第1章 インストールの概要	13
システム要件	14
ハードウェア要件	14
ソフトウェア要件	15
インストールのガイドライン	15
Messaging Server スイート	16
Netscape Server Core	16
Netscape Directory Suite	17
Administration Services	17
iPlanet Messaging Applications	18
Messaging Suite の概要図示	20
製品階層と相互作用	21
ポート番号	21
各製品のインストール時機と場所	21
iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールに必要な情報	22

インストール プロセスの概要	23
既存の Directory Server の構成	24
Configuration Directory Server の選択	24
Administration Domains	24
Users/Groups Directory Server の選択	25
ims_dssetup ユーティリティの実行	26
インストールのタイプ	27
Express インストール	27
一般的なインストール	27
カスタム インストール	28
サイレント インストール	28
第 2 章 インストールの質問	29
共通の質問	30
コンポーネントの質問	32
Directory Server の質問	34
Administration Server の質問	45
Messaging Server の質問	47
MMP の質問	53
第 3 章 インストール手順	55
インストール前のチェックリスト	56
インストール ファイルをインストールで使用できるようにする	57
Web から	57
CD から	57
setup プログラムの実行	58
インストールのシナリオと手順	59
シナリオ 1	60
シナリオ 2	62
シナリオ 3	64
シナリオ 4	66
サイレント インストール	68
ims_dssetup ユーティリティの実行	69
付録 A 高可用性	71
高可用性モデル	71
非対称	72
対称	73
N + 1	74
適切な高可用性モデルの選択	76
システム停止時間の計算	76
高可用性のインストール	77

クラスター エージェントのインストール	77
Veritas Cluster Server エージェントのインストール	78
SunCluster エージェントのインストール	83
Messaging Server の複数インスタンスに関する注記	85
2 番目のサービス グループの作成	85
インストールに関する注意	85
構成に関する注意	86
付録 B Messaging Multiplexor のインストール	87
Multiplexor のインストールと構成	87
インストールの前に	88
Multiplexor ファイル	88
Multiplexor のインストール	89
インストール後の手順	92
SSL を使用するための MMP の構成	93
追加インスタンスの作成	95
既存のインスタンスの変更	96
Multiplexor の開始	96
Messaging Topology のサンプル	96
付録 C ソフトウェアのアンインストール	101
アンインストールする理由	101
Messaging Server コンポーネントのアンインストール	102
HA コンポーネントのアンインストール	105
Veritas Cluster Server の可用性の高いコンポーネントのアンインストール	105
SunCluster の可用性の高いコンポーネントのアンインストール	106
索引	107

本書について

このマニュアルでは、iPlanet Messaging Server 5.0 および付属するソフトウェア コンポーネントをインストールする方法を説明しています。iPlanet Messaging Server 5.0 は、エンタープライズの電子メール ニーズおよびすべてのサイズのメッセージ 送信ホストにオープン インターネット標準規格を使用して強力で柔軟なプラットフォーム間ソリューションを提供します。

この章は、次のトピックで構成されています。

- 対象読者
- 前提条件
- 本書の構成
- 表記規則
- 関連情報の参照先
- 本書のオンラインの参照先

対象読者

自社のサイトに iPlanet Messaging Server 5.0 をインストールして展開する責任者。

注 インストール プログラムでは、既存のメールボックスおよびメッセージ キューを新しくインストールされたサーバに移行するためのオプションはありません。既存のデータを移行する場合は、テクニカル サポートにお問い合わせください。

前提条件

本書では、読者が Messaging Server ソフトウェアのインストールに責任があり、以下の項目についての基本的な知識があることを想定しています。

- インターネットとワールドワイドウェブ
- iPlanet Administration Server
- iPlanet Directory Server および LDAP
- Netscape Console

本書の構成

本書は、次の章と付録で構成されています。

- 本書について (この章)
- 第 1 章「インストールの概要」

この章では、インストールを開始する前に知っておく必要のある情報を提供しています。いくつかのトピックには、システム要件、インストール オプション、およびインストールされるさまざまなコンポーネントおよび製品についての説明が含まれます。
- 第 2 章「インストールの質問」

この章では、Messaging Server インストール時のすべての質問およびそれに対するユーザからの応答を一覧表示して説明しています。実行しているインストールのタイプによって、この章に記載されている質問のすべてが表示されない場合があります。
- 第 3 章「インストール手順」

この章では、選択可能な 4 つの基本的なインストール シナリオおよび各シナリオにおいて応答が求められる質問のチェックリストやワークシートについて説明します。インストール ファイルをサーバマシンに転送する方法および setup プログラムを実行して使用する方法についても、この章に記載されています。
- 付録 A「高可用性」

この付録では、高可用性モデルについて説明し、各モデルの利点および欠点についての概略を示します。また、インストール前後の手順および構成情報も記載されています。
- 付録 B「Messaging Multiplexor のインストール」

この付録では、Messaging Multiplexor をインストールし、開始する手順を説明しています。また、サンプルの構成ファイルも含まれています。Messaging Multiplexor に関するより詳細な情報については、『*iPlanet Messaging Server 5.0 Administrator's Guide*』および『*iPlanet Messaging Server 5.0 Reference Manual*』を参照してください。
- 付録 C「ソフトウェアのアンインストール」

この付録では、Messaging Server をアンインストールする理由およびアンインストール方法を説明しています。

表記規則

等幅フォント

等幅フォントは、コンピュータ画面に表示されるテキストまたはユーザが入力するテキストに使用されます。また、ファイル名、識別名、関数および例にも使用されます。

太字等幅フォント

太字等幅フォントは、ユーザが入力するコード サンプル内のテキストを表すために使用されます。例えば、次のように表示されます。

```
./setup
Sun-Netscape Alliance
iPlanet Server Products Installation/Uninstallation
-----

Welcome to the iPlanet Server Products installation program. This
program will install iPlanet Server Products and the iPlanet Console
on your computer.

It is recommended that you have "root" privilege to install the
software.

Tips for using the installation program:

- Press "Enter" to choose the default and go to the next screen
- Type "Control-B" to go back to the previous screen
- Type "Control-C" to cancel the installation program
- You can enter multiple items using commas to separate them.
For example: 1, 2, 3

Would you like to continue with installation? [Yes]:
```

この例では、**./setup** が、コマンドラインからユーザが入力するテキストで、その他は、入力した結果として表示されるテキストです。

斜体

斜体フォントは、ユーザのインストールに固有の情報を使用して入力するテキストを表すために使用されます (例えば、変数)。サーバパスおよびパス名、およびアカウント ID に使用されます。

例えば、本書では、次の形式のパスリファレンスが記載されています。

```
server-root/msg-serverID/...
```

この場合、*server-root* は、サーバをインストールしたディレクトリパスを表し、*msg-serverID* は、インストールするときに使用するサーバインスタンスを表します。例えば、サーバを `/usr/iplanet/server5` ディレクトリにインストールして、サーバインスタンス `tango` を使用する場合、実際のパスは次のようになります。

```
/usr/iplanet/server5/msg-tango/
```

角括弧

角括弧 `[]` は、オプションのパラメータをくくるために使用されます。例えば、本書では、`setup` コマンドが次のように示されます。

```
./setup [options] [argument]
```

次のように `setup` コマンドのみを実行して Messaging Server インストールを開始することもできます。

```
./setup
```

ただし、`[options]` および `[arguments]` がある場合、`setup` コマンドに追加できる追加のオプションパラメータがあることを示します。例えば、次のように `setup` コマンドを `-k` オプションを指定して実行してインストールキャッシュを保持することができます。

```
./setup -k
```

コマンドラインプロンプト

コマンドラインプロンプト (例えば、C シェル用の `%` または Korn または Bourne シェル用の `$`) は、例には表示されません。使用しているオペレーティングシステム環境によって、さまざまなコマンドラインプロンプトが表示されます。ただし、コマンドは特に記載がない限りマニュアルに表示されているとおりに入力してください。

関連情報の参照先

本書に加え、iPlanet Messaging Server 5.0 では、管理者向けの補足情報およびエンドユーザや開発者向けのマニュアルを提供しています。すべての Messaging Server のマニュアルについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging.html>

利用可能な追加マニュアルを次に一覧表示します。

- iPlanet Messaging Server 5.0 Administrator's Guide
- iPlanet Messaging Server 5.0 Reference Manual
- iPlanet Messaging Server 5.0 Schema Reference
- iPlanet Messaging Server 5.0 Provisioning Guide
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging Installation Guide

iPlanet Messaging Server 製品スイートには、Netscape Console、Directory Server、および Administration Server などのさまざまなその他の製品が含まれています。これらの製品およびその他の製品のマニュアルについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/index.html>

本書のオンラインの参照先

iPlanet Messaging Server 5.0 Installation Guide をオンラインで PDF および HTML 形式で参照できます。次の URL を参照してください。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging/ims50/install/contents.htm>

インストールの概要

この章では、インストールを開始する前に知っておく必要のある重要な情報を提供しています。次のセクションで構成されています。

- システム要件
- Messaging Server スイート
- 製品階層と相互作用
- インストール プロセスの概要
- 既存の Directory Server の構成
- インストールのタイプ

システム要件

このセクションでは、iPlanet Messaging Server 5.0 のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの最低要件およびインストール権限について概略を説明しています。インストールを実行する前に、これらの要件を満たしていることを確認する必要があります。

ハードウェア要件

iPlanet Messaging Server 5.0 の最低ハードウェア要件は、次のとおりです。

- 標準インストールの場合、約 500MB の空きディスク容量。生産システムの場合は、製品バイナリをサポートするために少なくとも 1GB は必要です。
- 64MB の RAM。生産システムの場合は、少なくとも 256MB の RAM が必要です。サイトのサイズ、ユーザ数などによって割り振りして下さい。
- ユーザ メールボックス (メッセージストア)、データベース、ログファイル、およびメッセージキューディレクトリ用の適切なスペース。これらは、サイトのサイズによって大幅に増加する可能性があるため、それによってスペースを割り振ってください。
- 高速アクセス用の RAID ストレージ (オプション)。

注

既存の Certificate Management System を「単一コピー」モードで実行している場合は、少なくともメッセージストアの 2 倍のサイズの一時ディスクスペースが必要です。インストールが失敗してログがスペース不足の問題をレポートする場合は、一時ディスクスペースを追加してください。

ソフトウェア要件

iPlanet Messaging Server 5.0 は、次のプラットフォーム上でサポートされています。

- Solaris 2.6 for Sparc、パッチ 105591-09 適用 (C++ 用共用ライブラリ パッチ) およびその他の推奨パッチ適用。
- Solaris 8 for Sparc、推奨パッチ適用。

Solaris 2.6 および Solaris 8 用の推奨パッチのリストについては、次の URL を参照してください。

<http://access1.sun.com/patch.public/>.

Messenger Express アクセスには、Messaging Server に JavaScript 使用可能ブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るには、iPlanet では次のブラウザの使用を推奨します。

- Netscape Navigator 4.7 以降
- Internet Explorer 5.0 以降

インストールのガイドライン

このセクションでは、Messaging Server インストールの準備をするときに必要な情報および従うべき推奨ガイドラインについて説明しています。

インストール権限

iPlanet Messaging Server 5.0 は、root としてログインしてインストールする必要があります。

ホスト名およびドメイン名

iPlanet インストールユーティリティでは、UNIX システム ファイル内にホスト名およびドメイン名が正しく定義されていると想定しています。iPlanet サーバをインストールする前に、hostname および domainname コマンドの両方が正しい情報を返すことを確認してください。システムが domainname コマンドをサポートしていない場合は、/etc/resolv.conf ファイル内のドメイン名を確認してください。

ディレクトリ

Messaging Server、Directory Server、および Administration Servers は、server-root と呼ばれるディレクトリにインストールされます。これらのディレクトリは、サーバが互いを識別できるようにするための既知のファイル位置構造 (ファイル ディレクトリパス) を提供します。

Messaging Server スイート

iPlanet Messaging Server インストールには、iPlanet Messaging Server 5.0 を実行するために必要なすべてのものが含まれています。インストールに含まれている製品のスイートについては、このセクションの残りの部分で説明しています。

Netscape Server Core

インストール中に、Netscape Server Core をインストールするオプションがあります。これには、次のサブセクションで説明している製品またはコンポーネントが含まれます。

Netscape Server Product Core コンポーネント (Netscape Console 4.2)

Netscape Console では、すべての Netscape および iPlanet サーバ製品用の共通ユーザインタフェースを提供しています。そこから非 SMTP サーバの停止と開始、新しいサーバインスタンスのインストール、ユーザおよびグループ情報の管理などの共通サーバ管理機能を実行できます。Netscape Console は、ネットワーク上の任意のマシン上にスタンドアロンでインストールでき、リモートサーバの管理に使用できます。

Netscape Core Java クラス

Netscape および iPlanet サーバ製品コア コンポーネントを実行し、サポートするために必要な Java クラス。

Java Runtime Environment (JRE)

Netscape および iPlanet サーバ製品コア コンポーネントを実行し、サポートするために必要な コンパイラ、ツール、およびバイナリ。

Netscape Directory Suite

Netscape Directory Suite の製品については、次のサブセクションで説明しています。

Netscape Directory Server

Directory Server は、ディレクトリ データベース サービスを管理し、iPlanet Messaging Server 5.0 などの LDAP クライアントからの要求に応答する iPlanet の LDAP 準拠サーバです。ユーザのマシン上で `ns-slapd` プロセスとして実行します。

注 Directory Server は、Messaging Server とは別のマシンにインストールすることをお勧めします。

Netscape Directory Server Console

これは、Directory Server とともに使用するよう特に設計された Netscape Console の一部です。Directory Server Console を使用すると、サーバの開始と停止、アクセス制御の管理、サーバログの表示と構成、ディレクトリ データベースのバックアップと復元など、ほとんどの Directory Server 管理タスクを実行することができます。

Administration Services

Administration Services インストール コンポーネントの製品については、次のサブセクションで説明しています。

Netscape Administration Server

Administration Server では、Netscape Console から通信を受信して適切な iPlanet サーバに渡します。サイトでは iPlanet サーバをインストールした各 *server-root* に対して少なくとも 1 つの Administration Server を持ちます。

Administration Server Console

これは、Administration Server とともに使用するよう特に設計された Netscape Console の一部です。ほとんどの Administration Server タスクを Administration Server Console (例えば、サーバの開始と停止) を通じて実行できます。

iPlanet Messaging Applications

Messaging Applications インストール コンポーネントの製品およびコンポーネントについては、次のサブセクションで説明しています。

iPlanet Message Store and Message Access

電子メール メッセージは、MTA によって **Message Store** に配布されます。**Message Store** へのアクセスは、**Messaging Server** 内のサーバである **Message Access** によって提供されます。**Message Access** では、HTTP、POP、または IMAP を介した **Message Store** へのアクセスを許可します。

Messaging Server では、1 つの汎用 **Message Store** 内で電子メールの保存、ボイスメール、およびファックスを通じて統一メッセージ送信サービスの基礎を提供します。メッセージストアへのアクセスは、複数のデバイス (電話、PDA など) およびプロトコル (HTTP、POP、IMAP) を介して利用できます。**Message Access** コンポーネントは、**Message Store** からのメッセージの取得処理を引き受けます。

iPlanet Message Transport Agent (MTA)

MTA では、ユーザメールのルーティングと配布、SMTP 認証、DNS アドレス解決、などのタスクを処理します。MTA では、ホストドメイン、ドメイン別名、サーバ側フィルタなどの機能のサポートを提供します。

iPlanet Messaging Multiplexor (MMP)

MMP は、iPlanet Messaging Server 5.0 の複数インスタンスへの接続の単一ポイントとして動作するプロキシサーバです。MMP を使用すると、大規模なメールサービスプロバイダは、POP および IMAP ユーザメールボックスを多くのマシン間で配布でき、メッセージ送信能力が向上します。すべてのユーザは単一の **Multiplexor** サーバに接続し、このサーバは各接続を適切なメールサーバにリダイレクトします。

注 MMP は、デフォルトではインストールされません。インストールする場合は、メニューから選択してください。MMP をインストールするには、「一般的なインストール」または「カスタムインストール」を選択してください。

High Availability for iPlanet Messaging Server

High Availability を使用すると、メッセージストア容量の拡張やユーザフォルダのバックアップおよび回復などのサーバ管理機能を実行できます。iPlanet Messaging Server 5.0 は、Veritas Cluster Server 1.1 以降および SunCluster 2.2 高可用性クラスタ化ソフトウェアと統合するよう設計されています。

さまざまな高可用性モデル、構成情報、およびインストール手順については、付録 A 「高可用性」を参照してください。

注 Messaging Server 用の高可用性コンポーネントは、デフォルトではインストールされません。インストールする場合は、メニューから選択してください。高可用性コンポーネントをインストールするには、「カスタムインストール」を使用する必要があります。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging CLI

これらのコマンドラインユーティリティ (CLI) では、ドメイン、ユーザ、およびグループのプロビジョニングを実行する機能を提供します。また、Service Administrator および Domain Administrator への権限も付与します。

注 iPlanet Delegated Administrator CLI では、iPlanet Delegated Administrator for Messaging 4.5 が必要です。詳細については、15 ページの「ソフトウェア要件」を参照してください。

Messaging Suite の概要図示

図 1-1 は、Messaging Suite 内のさまざまな製品とコンポーネント間の関係を示しています。

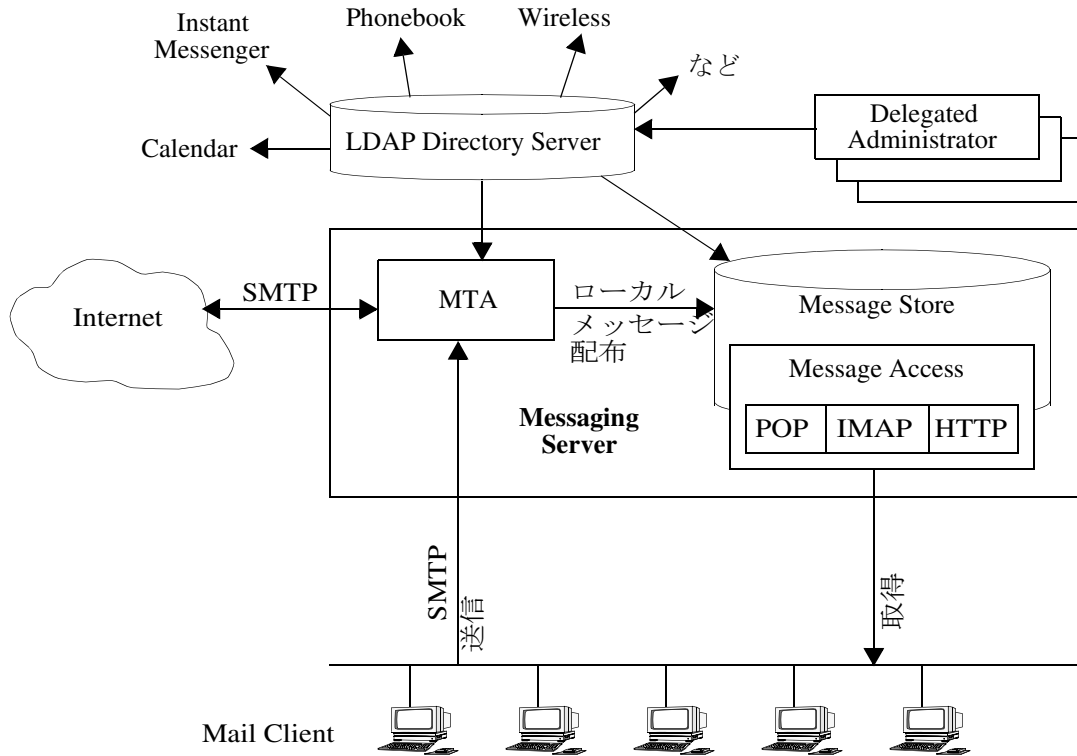


図 1-1 Messaging Suite 製品とコンポーネント

製品階層と相互作用

Messaging Server 5.0 では、以下のものがが必要です。

- Netscape Enterprise Server 4.1 Service Pack 2
- Netscape Administration Server 4.2
- Netscape Directory Server 4.11 または 4.12
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging

これらの製品はすべて、Messaging Server CD およびアーカイブ ファイル内に含まれています。iPlanet Delegated Administrator には Enterprise Server が必要です。

ポート番号

Enterprise Server および Messenger Express の両方ともポート 80 をデフォルトポートとして使用します。競合を避けるために、これらのサーバの一方または両方に異なるポート番号を指定してください。また、sendmail および SMTP の両方ともデフォルトでポート 25 を使用します。Messaging Server をインストールする前に sendmail を停止する必要があります。

ヒント インストール中に指定したすべてのポート番号をそのポート番号を使用する特定のコンポーネントと一緒に記録することをお勧めします。

各製品のインストール時機と場所

Directory Server が含まれていても、既存の Directory Server を使用することにして Messaging Server に含まれているものをインストールしない場合があります。そうする場合は、Messaging Server をインストールする前に、その既存の Directory Server に対して `ims_dssetup` を実行する必要があります。詳細については、24 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

Enterprise Server は、Delegated Administrator と同じマシン上にインストールする必要がありますが、Messaging Server は、別のマシン上にインストールできます。Delegated Administrator には Enterprise Server の存在が必要であるため、Delegated Administrator をインストールする前に Enterprise Server をインストールする必要があります。

Delegated Administrator は、Messaging Server の直後にインストールしてください。Delegated Administrator をインストールする前に Messaging Server のプロビジョニングを開始する場合は、Delegated Administrator インストールで問題が発生する可能性があります。

ヒント 最初に Messaging Server、次に Enterprise Server、次に Delegated Administrator の順にインストールすることをお勧めします。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールに必要な情報

Delegated Administrator では、Messaging Server インストールから次の情報を必要とします。Messaging Server インストールの前およびインストール中に、この情報を正確に記録してください。

- Users/Groups Directory Server の完全修飾ドメイン名
- Users/Groups Directory Server が待機するポート番号
- この Users/Groups Directory Server 用の接尾辞
- Directory Manager の Bind DN およびパスワード
- POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号 (Delegated Administrator の場合は、Messenger Express ポート番号を記録する必要があります)
- Service Administrator のログイン ID およびパスワード (Top-Level Administrator for the Delegated Administrator としても知られています)
- Messaging Server のホスト名とドメイン名
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート

インストール プロセスの概要

iPlanet Messaging Server および製品スイートのインストールで従う基本手順を次に示します。

1. システム要件を検証して、それらを満たしていることを確認します。
2. インストール タイプを選択します。
3. 実行するインストールのタイプに基づいて、インストールを完了するために必要な情報を収集します (例えば、ID、パスワード)。
4. 既存の Directory Server を使用するか、または Messaging Server に付属の Directory Server をインストールするかを決定します。
 - a. 既存の Directory Server を使用する場合は、Messaging Server をインストールする前に、この既存の Directory Server に `ims_dssetup` スクリプトを実行する必要があります。詳細については、24 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。
 - b. 既存の Directory Server がない場合、または既存の Directory Server を使用しない場合は、Messaging Server に付属の Directory Server をインストールする必要があります。Messaging Server インストールによって Directory Server の唯一のインスタンスが作成されます。

注 Messaging Server に付属の Directory Server をインストールする場合は、`ims_dssetup` プログラムを実行する必要はありません。これは、既存の Directory Server を Messaging Server インストール用に準備するためのみに使用します。

5. 製品 CD または WWW からダウンロードして、インストールファイルが利用可能であることを確認します。
6. 次のコマンドを実行して `sendmail` を停止します。

```
/etc/init.d/sendmail stop
```
7. `setup` プログラムを実行して、インストールを実行します。
8. インストールが正常に完了したことを確認します。

既存の Directory Server の構成

このセクションでは、既存の Directory Server を Messaging Server インストールの準備として構成するための情報を提供します。既存の Directory Server がない場合、または Messaging Server に付属の Directory Server をインストールして構成する場合は、このセクションを読む必要はありません。

注 iPlanet Messaging Server 5.0 は、Netscape Directory Server バージョン 4.11 または 4.12 と互換性があります。既存の Directory Server を構成するには、`ims_dssetup` ユーティリティを実行します (26 ページの「`ims_dssetup` ユーティリティの実行」を参照してください)。

Configuration Directory Server の選択

すべての iPlanet サーバでは Directory Server のインスタンスを使用して構成情報を格納します。この情報は、`o=NetscapeRoot` ディレクトリ ツリーに格納されます。構成ディレクトリは、サーバが使用する `o=NetscapeRoot` ツリーを含む Directory Server です。詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

Directory Server を設定するときに、管理構成設定を単一の LDAP サーバに集中して、任意の数の iPlanet Server の構成をホストするために使用する場合があります。この方法では、Netscape Console を任意のサーバに対して開くと、Configuration Server ディレクトリと同じ LDAP サーバを使用しているその他すべてのサーバが表示されます。

Administration Domains

任意の Configuration Directory Server 上で、管理性を向上するためにサーバを異なる管理ドメインでグループ化することができます。初めて Directory Server をインストールして、Configuration Directory Server にするように選択した場合は、Administration Domain を指定できます。

管理ドメインは必要に応じていくつでも指定できます。各管理ドメインは、リソースエディタ拡張子など独自のグローバル設定を持つことができます。また、各管理ドメインは、独自のデフォルト Users および Groups ディレクトリ URL を定義できます。

Users/Groups Directory Server の選択

管理性を向上するには、iPlanet Messaging Server 5.0 の設定時に、1 つの Directory Server を Configuration Directory Server に指定し、別の Directory Server を Users および Groups 用に指定することをお勧めします。

Messaging Server をインストールするときに、Users/Groups Directory Server を指定するには2つの方法があります。

- Netscape Console、Directory Server、および Messaging Sever をインストールします。

Directory Server をインストールするときに、自身の Users/Groups Server として指定できます。別の Directory Server を Users および Groups 用に指定する場合は、Directory Server がインストール情報を収集しているときにインストールプロセス中にその情報を指定することができます。

- Netscape Console および Messaging Sever をインストールします。

この場合は、どの Configuration Directory Server および管理ドメインを使用するかが分かっている必要があります。インストールプログラムでは自動的にその管理ドメイン上の Configuration Directory Server から Users および Groups LDAP 情報を検出します。

インストールプログラムで推奨するサーバと異なるサーバを指定する場合は、Configuration Directory Server 上で `ims_dssetup` を実行して別の Users/Groups Server を指定します。次に自身の Users/Groups Server として指定したディレクトリ上で `ims_dssetup` を実行することも必要です。

注 インストールの完了後に、インストール時の指定に関わらず Netscape Console を使用して、iPlanet Messaging Server 5.0 が使用する Users および Groups Directory を変更することができます。

ims_dssetup ユーティリティの実行

ims_dssetup ユーティリティは、インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリの msg サブディレクトリにあります。ims_dssetup ユーティリティでは、次の項目が質問されます。

- Directory Server Root
これは、Directory Server がインストールされているディレクトリの絶対パスです。
- Select a Directory Server instance from a list of Directory Server instances.
- The base suffix for the DC tree (default is o=internet).
- The base suffix under which the users/groups data will be entered.
- Do you want to update the schema files?
- Do you want to configure new indexes?
- Enter the schema directory (default is config subdirectory of the directory where the ims_dssetup utility is located).

この時点で、選択したオプションの概略が示され、継続するかどうか尋ねられます。yes と応答して継続するか、または no と応答して終了し、やり直します。

注 ims_dssetup ユーティリティは実際は ims_dssetup.pl と呼ばれる Perl スクリプトの 1 つです。実行するには、システム上で perl5 が利用できる必要があります。詳細については、69 ページの「ims_dssetup ユーティリティの実行」を参照してください。

インストールのタイプ

iPlanet Messaging Server 5.0 インストール プログラムでは、4つのタイプのインストールを提供しています。

- Express インストール
- 一般的なインストール
- カスタム インストール
- サイレント インストール

インストールのそれぞれのタイプについては、次のサブセクションで説明しています。

Express インストール

このタイプのインストールでは、「クイック」インストールを実行します。このレベルのほとんどのオプションは自動的にデフォルト値で構成されるため、初心者ユーザにお勧めします。iPlanet Messaging Server 5.0 を評価するだけの場合は、Express インストールを使用します。

注 Express インストールではサーバ ポート番号またはディレクトリ接尾辞を選択するオプションがないため、実際の製品インストールには使用しないでください。

一般的なインストール

このタイプのインストールは、Express レベルよりも複雑です。いくつかのオプションはデフォルト値で自動的に構成されますが、いくつかのオプションは選択または値の入力が必要になります。一般的なインストールは、中級ユーザまたはカスタム構成が必要ないインストールにお勧めします。このタイプのインストールは、iPlanet Messaging Server 5.0 の標準インストールを実行するときに使用します。

カスタム インストール

これは、最も複雑なタイプのインストールです。すべての構成オプションを選択して入力する必要があります。カスタム インストールは、上級ユーザにのみお勧めします。このタイプのインストールは、インストール時に非デフォルト ネットワーク インタフェース バインディングまたは非デフォルト メッセージストアの場所を指定するなどの拡張アクティビティを実行する場合に使用します。

サイレント インストール

Messaging Server を `setup -k` コマンドを使用してインストールするときに、`install.inf` というキャッシュ ファイルが自動的に `server-root/setup` ディレクトリ内に作成されます。このファイルには、インストール プロンプトに対するすべての応答が含まれます。

サイレント インストールを実行することによって、`setup` プログラムに `install.inf` ファイルを読み取るように指定します。`setup` プログラムでは、ユーザに同じ質問を再び尋ねずに、このファイル内の応答を使用します。`install.inf` ファイル内のすべての応答は、自動的に新しいインストール パラメータとして適用されます。

このタイプのインストールは、Messaging Server のインスタンスを複数インストールするときにインストール プロセスを自動化する場合に使用します。この機能は、エンタープライズに複数のサーバをインストールする場合に特に役立ちます。

`setup` プログラムではインストール パラメータ用に `install.inf` キャッシュ ファイルを読み取るので、このファイルを必要に応じて次のインストール用に編集してください。例えば、次のインストールのホスト名はキャッシュ ファイルに記録されているホスト名とは異なります。

サイレント インストールの `setup` プログラムの実行手順については、第 3 章「インストール手順」に記載されています。

インストールの質問

この章では、インストール時に尋ねられるすべての質問の説明を提供しています。インストール オプションに依存して (例えば、一般的なインストールまたはカスタム インストールを実行しているか)、この章に記載されている質問のすべてが表示されない場合があります。

注 質問は特定の順序で記載されていません。どの質問にどの順序で応答する必要があるかを判別するには、次の章に進んでください。

Messaging Server インストールの質問は、次の主要なカテゴリに分割されます。

- 共通の質問
- コンポーネントの質問
- Directory Server の質問
- Administration Server の質問
- Messaging Server の質問
- MMP の質問

共通の質問

このセクションに記載されている質問は、どのタイプのインストールを実行していても表示されます。

1. ようこそ画面

```
Welcome to the iPlanet Server Products installation program. This
program will install iPlanet Server Products and the iPlanet
Console on your computer.
```

```
It is recommended that you have "root" privilege to install the
software.
```

```
Tips for using the installation program:
```

- Press "Enter" to choose the default and go to the next screen
- Type "Control-B" to go back to the previous screen
- Type "Control-C" to cancel the installation program
- You can enter multiple items using commas to separate them.
For example: 1, 2, 3

```
Would you like to continue with installation? [Yes]:
```

これは、最初に表示される画面です。この画面は、インストールを実行するには root ユーザの権限を持っている必要があることを示し、キーボードショートカットとメニューから複数項目を選択する方法も提供します。この画面を読んで、yes と応答するか、または Return を押してインストールを続けます。

2. ライセンス同意書

```
BY INSTALLING THIS SOFTWARE YOU ARE CONSENTING TO BE BOUND BY AND
ARE BECOMING A PARTY TO THE AGREEMENT FOUND IN THE LICENSE.TXT
FILE. IF YOU DO NOT AGREE TO ALL OF THE TERMS OF THIS AGREEMENT,
PLEASE DO NOT INSTALL OR USE THIS SOFTWARE.
```

```
Do you agree to the license terms? [No]:
```

ライセンス同意書を読んで、この質問に yes と応答して続けます。ライセンス契約書は、インストールソフトウェアをダウンロードしたディレクトリ内の LICENSE.txt ファイルにあります。

3. iPlanet サーバのインストール

Select the items you would like to install:

1. iPlanet Servers

Installs iPlanet Servers with the integrated Netscape Console onto your computer.

2. Netscape Console

Installs Netscape Console as a stand-alone Java application on your computer.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Select the component you want to install [1]:

この『Installation Guide』では、Netscape Console のみのインストールは扱っていません。詳細については、Netscape Console のマニュアルを参照してください。このメニューからオプション 1 を選択して続けます。

4. インストールのタイプ

Choose an installation type:

1. Express installation

Allows you to quickly install the servers using the most common options and pre-defined defaults. Useful for quick evaluation of the products.

2. Typical installation

Allows you to specify common defaults and options.

3. Custom installation

Allows you to specify more advanced options. This is recommended for experienced server administrators only.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Choose an installation type [2]:

このメニューからインストールタイプを選択します。それぞれのインストールタイプの詳細については、27 ページの「インストールのタイプ」を参照してください。

5. インストールの場所 (*server-root*)

This program will extract the server files and install them into a directory you specify. That directory is called the server root in the product documentation and will contain the server programs, the Administration Server, and the server configuration files.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Install location [/usr/iplanet/server5]:

希望のインストール場所を指定するか、または **Return** を押して、デフォルト値をそのまま使用します。このインストール場所は、このマニュアルでは *server-root* と表されます。

コンポーネントの質問

このセクションの質問は、Messaging Server スイート製品に関連し、インストールする製品の選択に関連します。

6. iPlanet Server Products コンポーネント

iPlanet Server Products components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]:

Messaging Server スイートのどの製品またはコンポーネントをインストールするかを指定します。それぞれの製品またはコンポーネントの詳細については、16 ページの「Messaging Server スイート」を参照してください。

7. Netscape Server Products Core コンポーネント

Netscape Server Products Core Components components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components
2. Netscape Core Java classes
3. Java Runtime Environment

Specify the components you wish to install [1, 2, 3]:

Netscape Server Products Core コンポーネントのどのコンポーネントをインストールするかを指定します。各コンポーネントの詳細については、16 ページの「Netscape Server Core」を参照してください。

8. Netscape Directory Suite コンポーネント

Netscape Directory Suite components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Directory Server
2. Netscape Directory Server Console

Specify the components you wish to install [1, 2]:

Netscape Directory Suite コンポーネントのどのコンポーネントをインストールするかを指定します。各コンポーネントの詳細については、17 ページの「Netscape Directory Suite」を参照してください。

9. Administration Services コンポーネント

Administration Services components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Administration Server
2. Administration Server Console

Specify the components you wish to install [1, 2]:

Administration Services コンポーネントのどのコンポーネントをインストールするかを指定します。各コンポーネントの詳細については、17 ページの「Administration Services」を参照してください。

10. iPlanet Messaging Applications コンポーネント

iPlanet Messaging Applications components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. iPlanet Message Store and Message Access
2. iPlanet Internet Message Transport Agent
3. iPlanet Messaging Multiplexor
4. High Availability for iPlanet Messaging Server
5. iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities

Specify the components you wish to install [1, 2, 5,]:

インストールする iPlanet Messaging Applications コンポーネントを選択します。各コンポーネントの詳細については、18 ページの「iPlanet Messaging Applications」を参照してください。

Directory Server の質問

このセクションの質問は、Directory Server に関連しています。表示される質問および期待されている応答は特定のインストールシナリオによって異なります。

11. インストール マシンの完全修飾ドメイン名

Enter the fully qualified domain name of the computer on which you're installing server software. Using the form

```
<hostname>.<domainname>
```

Example: eros.airius.com.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Computer name [budgie.siroe.com]:

サーバソフトウェアをインストールしているマシンの完全修飾ドメイン名を指定します。

12. System User および System Group

Choose a Unix user and group to represent the iPlanet server in the user directory. The iPlanet server will run as this user. It is recommended that this user should have no privileges in the computer network system. The Administration Server will give this group some permissions in the server root to perform server-specific operations.

If you have not yet created a user and group for the iPlanet server, create this user and group using your native UNIX system utilities.

To accept the default shown in brackets, press the Return key.

System User [nobody]:

System User および System Group は、*server-root* 内のすべてのサーバによって共有される構成ファイルおよびディレクトリの所有権を設定するために使用される構成変数です (例えば、SSL key/cert ファイル、LDAP ツール、ライブラリなど)。同じ *server-root* にインストールされたサーバは、この情報へのアクセスに関しては同じ権限を持ちます。

システム ユーザおよびグループの両方のデフォルトは、*nobody* です。これは、このアカウントが既にすべての UNIX サブシステム上に存在していなければならないためです。デフォルトを使用するのではなく、Messaging Server を実行するための新しいユーザを作成します (例えば、*imsuser*)。この新しいユーザは、グループ *nobody* に属している必要があります。

注 システム グループ ID は、Directory Server に使用したものと同じにして Messaging Server が構成およびセキュリティ データへのアクセス権を持つようにします。セキュリティ上の理由から、このユーザ ID にはシステム上のほかの場所への権限を持たないことをお勧めします。

13. Directory Server の LDAP URL

iPlanet Server Products require an LDAP-based Directory Server for the administration of server configuration. This server contains the Configuration Directory.

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

```
ldap://<hostname>:<port>
```

URL of Directory Server [ldap://budgie.siroe.com:389/]:

既存の Directory Server の LDAP URL を `ldap://` ホスト名 : ポートの形式で指定します。Directory Server が使用中のポートを判断するには、この Directory Server の `server-root/slapd-serverID/config` ディレクトリにある `slapd.conf` ファイルを確認します。詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

14. Configuration Directory 内の Administration Domain

Please specify the name of the Administration Domain in the Configuration Directory where your server configuration information is to be stored.

You must have already been granted write access to this Administration Domain in order to install the software.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Administration Domain name [siroe.com]:

Configuration Directory Server に使用したのと同じドメイン名を使用するか、Configuration Directory Server 内で作成したほかの Administration Domain を使用します。Administration Domain は、Configuration Directory Server の一部です。同時に複数のソフトウェア リリースを管理している場合、または複数ドメインの情報を管理している場合は、Administration Domain を使用してそれぞれを分離しておくことができます。

Messaging Server を既存の Directory Server でインストールする場合にこの質問が表示されます。

15. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード

Enter the User ID or Distinguished Name of the administrator who is authorized to access the Configuration Directory at

```
ldap://budgie.siroe.com:6892/
```

Configuration Admin ID or DN: [admin]:

これは、Netscape Console を介してサーバに構成変更を行うことができるアカウントのユーザー名および関連パスワードです。Configuration Server Administrator は、Configuration Directory Server インスタンスを使用するすべてのサーバ (iPlanet Messaging Server 5.0) に対する管理権限を持ちますが、Configuration Directory Server 自身に対する管理権限はありません。

この質問は、既存の Configuration Directory Server を使用して、この既存の Configuration Directory Server を使用するサーバをインストールした場合、または `ims_dssetup` ユーティリティを実行してこの既存の Configuration Directory Server を Messaging Server インストール用に準備するときに表示されます。デフォルトは `admin` です。

16. 既存の Directory Server の登録

Netscape server information is stored in the Netscape configuration directory server, which you may have already set up. If so, you should configure this server to be managed by the configuration server. To do so, the following information about the configuration server is required: the fully qualified host name of the form <hostname>.<domainname> (e.g. hostname.domain.com), the port number, the suffix, and the DN and password of a user having permission to write the configuration information, usually the Netscape configuration directory administrator.

If you want to install this software as a standalone server, or if you want this instance to serve as your Netscape configuration directory server, press Enter.

Do you want to register this software with an existing Netscape configuration directory server? [Yes]:

この質問に `yes` と応答した場合は、既存の Configuration Directory Server が起動して実行中であること、それに対して `ims_dssetup` スクリプトを実行してこの Messaging Server インストール用に準備していることを確認してください。詳細については、24 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

17. 既存の Configuration Directory Server の完全修飾ドメイン名。
hostname.domainname 形式

```
Enter the fully qualified domain name of the Netscape
configuration directory server host in the form
<hostname>.<domainname> (e.g. hostname.domain.com).
```

```
Netscape configuration directory server host name:
```

既存の Configuration Directory Server が常駐しているマシンの完全修飾ドメイン名を指定します。

18. Configuration Directory Server が待機するポート番号

```
Please specify the port number on which the Netscape
configuration directory server listens.
```

```
Netscape configuration directory server port number [389]:
```

サーバが使用している *port* を判別するには、この Directory Server の *server-root/slapd-serverID/config* ディレクトリ内の *slapd.conf* ファイルをチェックしてください。詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

Messaging Server を既存の Configuration Directory Server でインストールする場合にこの質問が表示されます。

19. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード

```
To write configuration information into the Netscape
configuration directory, you must bind to the server as an entity
with the appropriate permissions. Usually, the Netscape
configuration directory administrator is used for this purpose,
although you can give other directory accounts the proper access.
```

```
Netscape configuration directory server administrator ID [admin]:
```

Configuration Server Administrator は、Netscape Console を通じてサーバへの構成変更を行うことができます。このユーザは、Configuration Directory Server インスタンスを使用するすべてのサーバ (iPlanet Messaging Server 5.0) に対する管理権限を持ちますが、Configuration Directory Server 自身に対する管理権限はありません。

この質問は、既存の Directory Server がなく、Messaging Server ソフトウェアに含まれているものをインストールするよう選択した場合に表示されます。パスワードは 2 回要求されます。

20. Administration Domain

The Administration Domain is a part of the configuration directory server used to store information about Netscape software. If you are managing multiple software releases at the same time, or managing information about multiple domains, you may use the Administration Domain to keep them separate.

If you are not using administrative domains, press Enter to select the default. Otherwise, enter some descriptive, unique name for the administration domain, such as the name of the organization responsible for managing the domain.

Administration Domain [siroe.com]:

Administration Domain を指定します。Administration Domain の詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

この質問は、既存の Directory Server がなく、Messaging Server ソフトウェアに含まれているものをインストールする場合に表示されます。

21. Directory Server ネットワーク ポート

The standard directory server network port number is 389. However, if you are not logged as the superuser, or port 389 is in use, the default value will be a random unused port number greater than 1024. If you want to use port 389, make sure that you are logged in as the superuser, that port 389 is not in use, and that you run the admin server as the superuser.

Directory server network port [389]:`

Directory Server ネットワーク ポート番号を指定してください。

この質問は、既存の Directory Server がなく、Messaging Server ソフトウェアに含まれているものをインストールする場合に表示されます。

22. この Directory Server 用の固有の ID

Each instance of a directory server requires a unique identifier. Press Enter to accept the default, or type in another name and press Enter.

Directory server identifier [budgie]:

これは、Directory Server のこのインスタンスの固有の識別子です。各 Directory Server インスタンスは固有の識別子 *serverID* を持っている必要があります。インストールプログラムでは、自動的に接頭辞「slapd-」を指定した名前に付加します。例えば、サーバイスタンスに *tango* という名前を付けた場合、インストールプログラムでは *slapd-tango* という名前の *serverID* を作成します。

23. 接尾辞

The suffix is the root of your directory tree. You may have more than one suffix.

Suffix [o=siroe.com]:

これは、デフォルト ドメインに対応するホスト ドメインを含め、すべてのホスト ドメインのユーザおよびグループが定義されるディレクトリ ツリーのルートです。Messaging Server インストールプログラムでは、適切なデフォルトを提供します。これは、必要に応じて変更することができます。ただし、次の形式で適切にフォーマットされた組織 DN を提供する必要があります。

o=suffix

注意 ここで指定するルート接尾辞は、Messaging Server、Directory Server、および Delegated Administrator のものと同じでなければなりません。既に Directory Server をインストールしている場合は、この既存のルート接尾辞を Messaging Server および Delegated Administrator に使用する必要があります。

この質問は、既存の Directory Server がなく、Messaging Server ソフトウェアに含まれているものをインストールする場合に表示されます。ここで指定した接尾辞は、作成されます。

24. Directory Manager の Bind DN およびパスワード

Certain directory server operations require an administrative user. This user is referred to as the Directory Manager and typically has a bind Distinguished Name (DN) of cn=Directory Manager. Press Enter to accept the default value, or enter another DN. In either case, you will be prompted for the password for this user. The password must be at least 8 characters long.

Directory Manager DN [cn=Directory Manager]:

Directory Manager は Directory Server スキーマを変更する権限を持ちます。このユーザは、Directory Server および Directory Server を使用するすべての iPlanet サーバ (例えば、Messaging Server) に対する管理権限を持ち、Directory Server 内のすべてのエン트리への管理アクセス権を持ちます。

デフォルトおよび推奨 DN は、cn=Directory Manager です。

25. Do you want another Directory Server to store your Users and Groups data?

If you already have a directory server you want to use to store your data, such as user and group information, answer Yes to the following question. You will be prompted for the host, port, suffix, and bind DN to use for that directory server.

If you want this directory server to store your data, answer No.

Do you want to use another directory to store your data? [No]:

この質問に yes と応答した場合は、既存の Users/Groups Directory Server が起動して実行中であること、それに対して ims_dssetup スクリプトを実行してこの Messaging Server インストール用に準備していることを確認してください。詳細については、24 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

26. Users/Groups Directory Server の完全修飾ドメイン名

Enter the fully qualified domain name of the user directory host of the form <hostname>.<domainname> (e.g. hostname.domain.com).

User directory host name :

既存の Users/Groups Directory Server が常駐するマシンの完全修飾ホスト名およびドメイン名を *hostname.domainname* (例: budgie.siroe.com) の形式で指定します。

27. Users/Groups Directory Server が待機するポート番号

Please specify the port number on which the user directory listens.

User directory port number [389]:

サーバが使用している *port* を判別するには、この Directory Server の *server-root/slapd-serverID/config* ディレクトリ内の *slapd.conf* ファイルをチェックしてください。詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

28. この Users/Groups Directory Server 用の接尾辞

Please specify the suffix for the user directory server.

User directory server suffix [o=siroe.com]:

Messaging Server を既存の Users/Groups Directory Server でインストールする場合にこの質問が表示されます。ここで指定した接尾辞は、既に存在している必要があります。

29. Users/Groups Server Administrator のログイン ID およびパスワード

In order to add and modify information in the user directory, you must be able to bind to the server as an entity with the correct permissions. This user is usually the Directory Manager, although other users may be given the proper access. You will also be asked to provide the password.

User directory administrator ID [cn=Directory Manager]:

このユーザは、Directory Server 上の Users および Groups ディレクトリに対する管理権限を持っています。管理サーバー構成 (Configuration Server) とユーザーおよびグループ (Users および Groups Server) 用に異なるディレクトリを使用できます。User/Groups Server Administrator は、Users および Groups ディレクトリに対してすべての権限を持っている必要があります。デフォルトおよび推奨値は cn=Directory Manager です。

注 Users/Groups Administrator アカウントは、ims_dssetup ユーティリティでは作成されません。このアカウントは、Messaging Server インストールで作成する必要があります。

30. Directory Server の複製

Replication is used to duplicate all or part of a directory server to another directory server. This can be used for failsafe purposes, to ensure that the directory data is always online and up-to-date in case one server goes down. It is also useful for distributing directory data from a central main repository to remote directory servers.

Do you want to configure this directory server to use replication? [No]:

複製は、Directory Server のすべてまたは一部を別の Directory Server に複製するときに使用します。また、サーバーがダウンした場合にも常に最新のディレクトリ データがオンラインになっているよう、フェイルセーフの目的でこの機能を使用することもできます。さらに、中央のメイン レポジトリからリモートの Directory Server にディレクトリ データを配布するときにも便利です。

注 このインストールの場合は、no と応答します。Directory Server を後から複製を使用するよう構成することができます。詳細情報および手順については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。

31. サンプル エントリ

You may install some sample entries in this directory instance. These entries will be installed in a separate suffix and will not interfere with the normal operation of the directory server.

Do you want to install the sample entries? [No]:

サンプルは、別の接尾辞でインストールされ、この Directory Server の通常の動作には影響しません。

32. 新しい Directory Instance にデータを入力する

You may wish to populate your new directory instance with some data. You may already have a file in LDIF format to use or some suggested entries can be added. If you want to import entries from an LDIF file, you may type in the full path and filename at the prompt. If you want the install program to add the suggested entries, type the word suggest at the prompt. The suggested entries are common container entries under your specified suffix, such as ou=People and ou=Groups, which are commonly used to hold the entries for the persons and groups in your organization. If you do not want to add any of these entries, type the word none at the prompt.

Type the full path and filename, the word suggest, or the word none [suggest]:

既存の LDIF ファイルからエントリをインポートする場合は、絶対パスとファイル名を指定します。推奨するエントリをインストールプログラムで追加する場合は、プロンプトで「suggest」と入力します。これらのエントリが必要ない場合は、プロンプトで「none」と入力します。デフォルトは「suggest」です。

33. スキーマ チェックの無効化

If you are going to import an old database immediately after or during installation, and you think you may have problems with your old schema, you may want to turn off schema checking until after the import. If you choose to do this, schema checking will remain off until you manually turn it back on. Netscape recommends that you turn it back on as soon as possible.

Do you want to disable schema checking? [No]:

インストール後またはインストール中に古いデータベースをインポートする場合に、古いスキーマに問題があると思われるときは、インポートが完了するまでスキーマチェックをオフにしておくことができます。このように選択した場合、スキーマチェックは手動でオンに戻すまでオフのままです。できるだけ早くオンに戻すことをお勧めします。

Administration Server の質問

このセクションの質問は、Administration Server に関連しています。表示される質問および期待されている応答は特定のインストールシナリオによって異なります。

34. Administration Server ポート

The Administration Server is separate from any of your application servers since it listens to a different port and access to it is restricted.

Pick a port number between 1024 and 65535 to run your Administration Server on. You should NOT use a port number which you plan to run an application server on, rather, select a number which you will remember and which will not be used for anything else.

The default in brackets was randomly selected from the available ports on your system. To accept the default, press return.

Administration port [6910]:

1024 ~ 65535 の間の未使用のポート番号を選択してください。

注 このポート番号をメモしてください。忘れた場合は、
server-root/admin-serv/config/adm.conf ファイル内で見つける
ことができます。

35. Administration Server を現在のホストのデフォルトの IP アドレスではなく特定の IP アドレスにバインドするか

If you want to configure the Administration Server to bind to a specific IP address rather than the default IP address of the current host, enter the address below.

To accept the default shown in brackets, press the Return key.

IP address [192.18.126.126]:

詳細情報については、お手持ちの Administration Server マニュアルを参照してください。

36. Administration Server のユーザ名

The Administration Server program runs as a certain user on your system. This user should be different than the one which your application servers run as. Only the user you select will be able to write to your configuration files. If you run the Administration Server as "root", you will be able to use the Server Administration screen to start and stop your application servers.

Run Administration Server as [root]:

Administration Server は、ユーザのすべての構成ファイルに対する書き込み権限を持つこのユーザとして実行します。このユーザは、自身の Directory Server ユーザとは異なっていなければなりません。デフォルトおよび推奨ユーザは、root で、サーバを開始および停止するために Netscape Console インタフェースを使用できるようにします。

注 Administration Server は、主に Users および Groups 情報を変更するために使用されます。自身の Directory Server および Messaging Server 構成を管理するには、Netscape Console を使用することをお勧めします。

Messaging Server の質問

このセクションの質問は、Messaging Server に関連しています。表示される質問および期待されている応答は特定のインストール シナリオによって異なります。

37. この Messaging Server 用の固有の ID

```
The instance name is the unique identifier for this installed
Messaging Server. It is customary to use the host name as
instance name. However, you may choose any name you wish.
```

```
The instance name will be prefixed with "msg-" to identify the
installed server as a Messaging Server.
```

```
Instance Name [budgie]:
```

これは、Messaging Server のインスタンスの固有の識別子です。各 Messaging Server インスタンスは固有の識別子 *serverID* を持っている必要があります。インストールプログラムでは、自動的に接頭辞「msg-」を指定した名前に付加します。例えば、サーバインスタンスに tango という名前を付けた場合、インストールプログラムでは msg-tango という名前の *serverID* を作成します。

サーバー識別子は、英数字、ハイフン、およびアンダースコアのみを使用した単一の非修飾要素でなければなりません。ピリオド (.) またはその他の句読点や特殊文字 (@ # \$ % ^ & * など) を使用することはできません。

38. Messaging Server のホスト名とドメイン名

```
The Messaging Server responds to requests for a particular host
and domain. It is recommended you use the host and domain name of
the machine on which you are installing the Messaging Server.
```

```
Host Name [budgie.siroe.com]:
```

これは、Messaging Server が常駐しコマンドを実行するマシンのホスト名およびドメイン名です。 *hostname.domainname* (例: budgie.siroe.com) の形式で指定してください。

39. Messaging Server のユーザ名

The Messaging Server runs as a privileged user. The account should already exist on the system and should be a member of the iPlanet Group.

User Name [mailsrv]:

これは、Messaging Server を実行するユーザ ID です。Messaging Server は権限のあるユーザとして実行する必要があります。

メッセージストアなどのメッセージ送信データ ファイルは、このユーザによって所有されます。つまり、このユーザはセキュリティが高い必要があります。このユーザは、System Group のメンバーである必要がありますが、System User であってはなりません。セキュリティ上の理由から、このユーザアカウントはシステム上に特殊な権限を持ってはなりません。操作上でサーバはいくつかのディレクトリ パーミッションをこのユーザに割り当て、特定のサーバ固有操作を Netscape グループに割り当てます。デフォルトユーザ ID は mailsrv です。

40. Messaging Server のデフォルト ドメインおよび組織

Please enter the default domain and the default organization DN below. The default domain is the domain of unqualified user-id's that do not belong to any particular domain.

The default organization DN should represent the subtree under which all users that belong to the default domain are located. All users that belong to the default domain are managed under this subtree.

Default Domain [budgie.siroe.com]:

Default Organization DN [o=budgie.siroe, o=siroe.com]:

この Messaging Server のドメインと組織を指定します。デフォルトのドメインは、特定のドメインに属さない無効なユーザ ID のドメインです。デフォルトの組織である DN は、デフォルトのドメインに属するすべてのユーザが下位に存在するサブツリーを表します。デフォルトのドメインに属するユーザはすべてこのサブツリーの下で管理されます。

41. Directory Manager の識別名とパスワード

The Directory Manager DN and password.

```
ldap://budgie.siroe.com:389/o=siroe.com
```

User DN:

Directory Server の特定の操作には管理者ユーザが必要です。このユーザは Directory Manager と呼ばれ、通常は cn=Directory Manager というバインド識別名 (DN) を持ちます。Directory Manager の DN をパスワードを指定します。

42. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート

The Messaging Server requires the use of a Delegated Administration Server. The Delegated Administration Server is used by administrators and endusers to manage user accounts and their preferences.

A Delegated Administration Server does not have to exist at the given host and port. It may be installed later.

Host Name [budgie.siroe.com]:

Messaging Server では、Delegated Administration Server を使用する必要があります。これは、ユーザアカウントとプリファレンスを管理するために管理者とエンドユーザが発行します。

注 Delegated Administrator サーバは、この指定ポートおよびサーバ上に存在している必要はありません。後からインストールできます。

hostname は、Delegated Administrator 用の Web サーバをホストするマシンの名前であればなりません。このマシンは、ローカルまたはリモートを利用できます。ポート番号は、その Web サーバが待機するポートです。

注 Delegated Administrator クライアント (例えば、Command Line Interface) を Delegated Administrator とは異なるマシンにインストールする場合は、Delegated Administrator インストール時にこの情報を要求されます。記録しておいてください。

43. Messaging Server をファイアウォールの背後から実行するかどうかを指定する

The Messaging Server can route mail through a firewall. The firewall controls access between the Internet and your internal network.

If you choose to operate your Messaging Server behind a firewall, you must specify the fully qualified host name of the Smart Host, which has the Messaging Server routing information.

If your Messaging Server cannot route mail to a recipient's address, it forwards the message to its Smart Host.

[1] Yes, the Messaging Server is behind a firewall.

[2] No, the Messaging Server will not use a firewall.

Will the Messaging Server use a firewall [2]:

Messaging Server をファイアウォールの背後で運用するよう選択した場合は、メッセージをファイアウォールを超えてルーティングできる機能を持つ Smart Host の完全修飾ホスト名を指定する必要があります。

Messaging Server がメールを受信者のアドレスにルーティングできない場合は、メッセージを Smart Host に転送します。

44. プライマリ メッセージストア ディレクトリ

The Messaging Server will use the directory shown below as its primary message store.

Store Directory

[/usr/iplanet/server5/msg-budgie/store/partition/primary]:

これは、メッセージが書き込まれ、取得されるメッセージ格納領域へのパスです。このディレクトリへの絶対パス名を指定する必要があります。デフォルトの場所は `server-root/serverID/store/partition/primary` です。

45. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号

The Messaging Server uses TCP/IP ports for sending and receiving messages.

POP3 Port [110]:

The default port numbers are:

- POP3 (110)
- IMAP (143)
- SMTP (25)
- Messenger Express (80)

46. Service Administrator のログイン ID およびパスワード

The Messaging Server requires a Service Administrator account to exist in the Users Directory Server. The account has privileges to manage the various services of the Messaging Server.

The account will be created and given the necessary privileges.

User ID [ServiceAdmin]:

これは、Delegated Administrator の上位レベル管理者です。Messaging Server では、このアカウントが Users Directory Server 内に存在することが要求されます。このユーザは、ディレクトリ内に定義されている任意のユーザ、グループ、ドメイン、ドメイン組織、メーリングリスト、などを管理する権限 (例えば、作成、変更または削除) を持っています。

また、Service Administrator は Store Administrator 権限を暗黙に付与されます。例えば、プロキシを介して別のユーザとして認証でき、割り当てステータスをチェックするための機能を実行できます。

47. postmaster グループに追加する電子メールアドレス

A Postmaster alias will be created and used to distribute administrative email related to the Messaging Server. Mail sent to the Postmaster will be distributed to the members of the postmaster group. An email address that will be the initial member of the postmaster group is required. The given address (e.g. admin@domain.com) must be a valid address (it will NOT be created during the install).

Do not use an email address that begins with "Postmaster@". This email address is already assigned to the Postmaster alias.

Email Address:

postmaster グループ (電子メール グループ) は、インストールプログラムによって作成され、そのグループのメンバーを構成する電子メールアドレスを指定するよう要求されます。Users/Groups Directory Server 内の postmaster に宛先指定されたメールはすべて、この電子メール アカウントに送信されます。

注 postmaster に指定した電子メールアドレスは、インストール時に受け入れられて、postmaster グループが追加され、電子メールアドレスが postmaster グループに追加されます。ただし、指定した電子メールアドレスは、以前には Directory Server には存在していない場合があります。この場合、Console または iPlanet Delegated Administrator for Messaging を使用して、この電子メールアドレスでユーザまたはグループ アカウントを作成する必要があります。

MMP の質問

このセクションの質問は、Messaging Multiplexor (MMP) に関連しています。これらの質問は、iPlanet Messaging Applications Components メニューから MMP を選択していない場合には表示されません。

48. MMP を実行するユーザ ID

The Mail Multiplexor runs as a privileged user. The account should already exist on the system and should be a member of the iPlanet Group.

Please enter the Mail Multiplexor user [mmpsrv]:

49. Users/Groups Directory Server 内のドメイン コンポーネント ツリー用の LDAP URL

The Mail Multiplexor needs access to the domain component tree in the users and groups directory server. Enter the LDAP URL of the DC tree below, e.g., ldap://directory.siroe.com:389/o=internet

Please enter the LDAP URL to the domain component tree
[ldap://budgie.siroe.com:389/o=internet]:

インストール手順

この章では、iPlanet Messaging Server 5.0 をインストールする方法を説明しています。次のセクションで構成されています。

- インストール前のチェックリスト
- インストール ファイルをインストールで使用できるようにする
- setup プログラムの実行
- インストールのシナリオと手順
- サイレント インストール

インストール前のチェックリスト

この時点で、`setup` プログラムの実行準備が整い、**Messaging Server** のインストールを開始できる状態になっています。続行する前に、次の質問がすべて「はい」でなければなりません。

1. 第1章「インストールの概要」に定義されているシステム要件を確認し、それらを満たしていることを確認しましたか？
2. 21 ページの「製品階層と相互作用」を確認して、どのコンポーネントをどこにインストールするかを決定しましたか？
3. 実行するインストールのタイプを決定し、必要な情報をすべて収集しましたか？
4. 既存の **Directory Server** を使用するか、または **Messaging Server** に付属のものをインストールするか決定しましたか？
 - a. 既存の **Directory Server** を持っていて、**Configuration Directory Server** として使用する場合、`ims_dssetup` を実行して **Messaging Server** インストール用の準備をしていますか？詳細については、69 ページの「`ims_dssetup` ユーティリティの実行」を参照してください。
 - b. 既存の **Directory Server** を持っていて、**Users/Groups Directory Server** として使用する場合、`ims_dssetup` を実行して **Messaging Server** インストール用の準備をしていますか？詳細については、69 ページの「`ims_dssetup` ユーティリティの実行」を参照してください。

インストール ファイルをインストールで使用できるようにする

Web から

WWW から圧縮インストール プログラム ファイルを転送して展開するには、Messaging Server Web サイト上の iPlanet Messaging Server 5.0 アーカイブ ファイルを見つけます。ファイルは *archive.tar.gz* 形式になっています。*archive* は、圧縮アーカイブ ファイルの名前を表します。

アーカイブ ファイルを見つけたら、次の手順に従ってください。

1. Messaging Server を host するディレクトリ (例えば、/opt/msg5install) を作成して、アーカイブ ファイルをそのディレクトリにコピーします。
2. アーカイブ ファイルをコピーしたディレクトリに移動し、展開して内容を取り出します。次のコマンドを使用してください。

```
gunzip -c archive.tar.gz | tar -xvf -
```

アーカイブ ファイルが展開され、取り出されるとステータス メッセージが表示されます。

アーカイブ ファイルを展開して取り出すと、setup プログラムを実行する準備が整います。

CD から

Messaging Server をプロダクト CD からインストールするには：

1. インストール先マシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
2. solaris ディレクトリに変更します。
3. インストールする製品の適切なサブディレクトリに変更します。
 - ES (Netscape Enterprise Server)
 - iDA (iPlanet Delegated Administrator for Messaging)
 - iMS (iPlanet Messaging Server)

この時点で、setup プログラムの実行準備が整います。

setup プログラムの実行

setup プログラムは、Messaging Server Suite をインストールするために使用されます。次の手順で、コマンドを実行します。

```
./setup [options]
```

注 すべての画面が適切に表示されるように、最低 50 行の端末表示を使用する必要があります。

setup コマンド用のオプションパラメータは、表 3-1 に一覧表示されています。

表 3-1 setup コマンドのオプションパラメータ

パラメータ	説明
-h	オプションパラメータを一覧表示します。
-s	サイレントインストールモード。このパラメータは、-f <i>file</i> パラメータと一緒に使用する必要があります。
-f <i>file</i>	<i>file</i> をサイレントインストールスクリプトとして指定します。このパラメータは、-s パラメータと一緒に使用する必要があります。
-b <i>dir</i>	指定した <i>dir</i> からはバイナリファイルのみをインストールしてください。構成ファイルはインストールしないでください。
-k	インストールキャッシュを保持します。

サイレントインストールを実行する場合は、最初に setup コマンドを -k オプションを指定して実行する必要があります。これにより、サイレントインストールに使用される `install.inf` ファイルが作成されます。詳細については、第 1 章「インストールの概要」28 ページの「サイレントインストール」、および 68 ページの「サイレントインストール」を参照してください。

インストールのシナリオと手順

このセクションでは、Messaging Server Suite をインストールする詳細な手順を説明します。次のいずれかのインストール シナリオを選択する必要があります。

注 これらのシナリオの手順は、カスタム インストール用です。高速インストールまたは標準インストールを実行している場合は、ここに記載されている質問のすべてが表示されるわけではありません。

- 「シナリオ 1」: Messaging Server と Directory Server を同じサーバ上にインストールしています。
- 「シナリオ 2」: Messaging Server を既存の Configuration および Users/Groups Directory Server と一緒にインストールしています。
- 「シナリオ 3」: Messaging Server を既存の Configuration Directory Server のみとインストールしています。
- 「シナリオ 4」: Messaging Server を既存の Users/Groups Directory Server のみとインストールしています。

注 Messaging Server を既存の Directory Server と一緒にインストールする場合は、`ims_dssetup` ユーティリティを既存の Directory Server に対して実行して Messaging Server インストール用に準備する必要があります。詳細については、24 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

いくつかの質問では、特定の応答を求められる場合があります、その他の質問では、自分で応答を入力する必要があります。それぞれの質問の詳細については、第 2 章「インストールの質問」を参照してください。

ヒント 各質問に対する応答を記録しておくことが重要です。その情報が別の製品のインストール時に必要になる場合があります(例えば、iPlanet Delegated Administrator for Messaging では、Messaging Server インストールで指定した質問への応答のいくつかが求められます)。

シナリオ 1

Messaging Server と Directory Server を同じマシン上にインストールしている場合は、次の手順に従ってください。

1. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。例：

```
cd /opt/msg5install
```
2. 次のコマンドを実行して sendmail を停止し、SMTP 用ポート 25 を空けます。

```
/etc/init.d/sendmail stop
```
3. setup プログラムを実行して、インストールを開始します。例：

```
./setup -k
```
4. 第 2 章「インストールの質問」で説明しているように、次の画面および質問に応答を入力してください。
 - Question 1. ようこそ画面
 - Question 2. ライセンス同意書
 - Question 3. iPlanet サーバのインストール
 - Question 4. インストールのタイプ
 - Question 5. インストールの場所 (server-root)
 - Question 6. iPlanet Server Products コンポーネント (この画面上のすべてのコンポーネントを選択します)
 - Question 7. Netscape Server Products Core コンポーネント
 - Question 8. Netscape Directory Suite コンポーネント
 - Question 9. Administration Services コンポーネント
 - Question 10. iPlanet Messaging Applications コンポーネント
 - Question 11. インストール マシンの完全修飾ドメイン名
 - Question 12. System User および System Group
 - Question 16. 既存の Directory Server の登録 (この質問に no と応答します)
 - Question 25. Do you want another Directory Server to store your Users and Groups data? (この質問に no と応答します)
 - Question 21. Directory Server ネットワーク ポート
 - Question 22. この Directory Server 用の固有の ID

- Question 19. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 23. 接尾辞
- Question 24. Directory Manager の Bind DN およびパスワード
- Question 20. Administration Domain
- Question 30. Directory Server の複製 (この質問に no と応答します)
- Question 31. サンプル エントリ (この質問に no と応答します)
- Question 32. 新しい Directory Instance にデータを入力する (この質問に suggest と応答します)
- Question 33. スキーマ チェックの無効化 (この質問に no と応答します)
- Question 34. Administration Server ポート
- Question 35. Administration Server を現在のホストのデフォルトの IP アドレスではなく特定の IP アドレスにバインドするか
- Question 36. Administration Server のユーザ名
- Question 37. この Messaging Server 用の固有の ID
- Question 38. Messaging Server のホスト名とドメイン名
- Question 39. Messaging Server のユーザ名
- Question 40. Messaging Server のデフォルト ドメインおよび組織
- Question 42. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート
- Question 43. Messaging Server をファイアウォールの背後から実行するかどうかを指定する
- Question 44. プライマリ メッセージストア ディレクトリ
- Question 45. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号
- Question 46. Service Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 47. postmaster グループに追加する電子メール アドレス
- Question 48. MMP を実行するユーザ ID
- Question 49. Users/Groups Directory Server 内のドメイン コンポーネント ツリー用の LDAP URL

シナリオ 2

Messaging Server を既存の Configuration および Users/Groups Directory Server と一緒にインストールしている場合は、次のインストール手順に従ってください。

1. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。例：

```
cd /opt/msg5install
```
2. 次のコマンドを実行して sendmail を停止し、SMTP 用ポート 25 を空けます。

```
/etc/init.d/sendmail stop
```
3. setup プログラムを実行して、インストールを開始します。例：

```
./setup -k
```
4. 第 2 章「インストールの質問」で説明しているように、次の画面および質問に応答を入力してください。
 - Question 1. ようこそ画面
 - Question 2. ライセンス同意書
 - Question 3. iPlanet サーバのインストール
 - Question 4. インストールのタイプ
 - Question 5. インストールの場所 (server-root)
 - Question 6. iPlanet Server Products コンポーネント (Netscape Directory Suite コンポーネントを選択しないでください)
 - Question 7. Netscape Server Products Core コンポーネント
 - Question 9. Administration Services コンポーネント
 - Question 10. iPlanet Messaging Applications コンポーネント
 - Question 11. インストール マシンの完全修飾ドメイン名
 - Question 12. System User および System Group
 - Question 13. Directory Server の LDAP URL
 - Question 14. Configuration Directory 内の Administration Domain
 - Question 15. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード
 - Question 34. Administration Server ポート

- Question 35. Administration Server を現在のホストのデフォルトの IP アドレスではなく特定の IP アドレスにバインドするか
- Question 36. Administration Server のユーザ名
- Question 37. この Messaging Server 用の固有の ID
- Question 38. Messaging Server のホスト名とドメイン名
- Question 39. Messaging Server のユーザ名
- Question 40. Messaging Server のデフォルト ドメインおよび組織
- Question 41. Directory Manager の識別名とパスワード
- Question 42. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート
- Question 43. Messaging Server をファイアウォールの背後から実行するかどうかを指定する
- Question 44. プライマリ メッセージストア ディレクトリ
- Question 45. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号
- Question 48. MMP を実行するユーザ ID
- Question 49. Users/Groups Directory Server 内のドメイン コンポーネント ツリー用の LDAP URL

シナリオ 3

Messaging Server を既存の Configuration Directory Server のみと一緒にインストールしている場合は、次のインストール手順に従ってください。

1. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。例：

```
cd /opt/msg5install
```
2. 次のコマンドを実行して sendmail を停止し、SMTP 用ポート 25 を空けます。

```
/etc/init.d/sendmail stop
```
3. setup プログラムを実行して、インストールを開始します。例：

```
./setup -k
```
4. 第 2 章「インストールの質問」で説明しているように、次の画面および質問に応答を入力してください。
 - Question 1. ようこそ画面
 - Question 2. ライセンス同意書
 - Question 3. iPlanet サーバのインストール
 - Question 4. インストールのタイプ
 - Question 5. インストールの場所 (server-root)
 - Question 6. iPlanet Server Products コンポーネント (この画面上のすべてのコンポーネントを選択します)
 - Question 7. Netscape Server Products Core コンポーネント
 - Question 9. Administration Services コンポーネント
 - Question 10. iPlanet Messaging Applications コンポーネント
 - Question 11. インストール マシンの完全修飾ドメイン名
 - Question 12. System User および System Group
 - Question 16. 既存の Directory Server の登録 (この質問に yes と応答します)
 - Question 17. 既存の Configuration Directory Server の完全修飾ドメイン名。
hostname.domainname 形式
 - Question 18. Configuration Directory Server が待機するポート番号
 - Question 19. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード
 - Question 20. Administration Domain

- Question 21. Directory Server ネットワーク ポート
- Question 22. この Directory Server 用の固有の ID
- Question 23. 接尾辞
- Question 24. Directory Manager の Bind DN およびパスワード
- Question 30. Directory Server の複製 (この質問に no と応答します)
- Question 31. サンプル エントリ (この質問に no と応答します)
- Question 32. 新しい Directory Instance にデータを入力する (この質問に suggest と応答します)
- Question 33. スキーマ チェックの無効化 (この質問に no と応答します)
- Question 34. Administration Server ポート
- Question 35. Administration Server を現在のホストのデフォルトの IP アドレスではなく特定の IP アドレスにバインドするか
- Question 36. Administration Server のユーザ名
- Question 37. この Messaging Server 用の固有の ID
- Question 38. Messaging Server のホスト名とドメイン名
- Question 39. Messaging Server のユーザ名
- Question 40. Messaging Server のデフォルト ドメインおよび組織
- Question 42. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート
- Question 43. Messaging Server をファイアウォールの背後から実行するかどうかを指定する
- Question 44. プライマリ メッセージストア ディレクトリ
- Question 45. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号
- Question 46. Service Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 47. postmaster グループに追加する電子メール アドレス
- Question 48. MMP を実行するユーザ ID
- Question 49. Users/Groups Directory Server 内のドメイン コンポーネント ツリー用の LDAP URL

シナリオ 4

Messaging Server を既存の Users/Groups Directory Server のみと一緒にインストールしている場合は、次のインストール手順に従ってください。

1. インストール ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。例：

```
cd /opt/msg5install
```
2. 次のコマンドを実行して sendmail を停止し、SMTP 用ポート 25 を空けます。

```
/etc/init.d/sendmail stop
```
3. setup プログラムを実行して、インストールを開始します。例：

```
./setup -k
```
4. 第 2 章「インストールの質問」で説明しているように、次の画面および質問に応答を入力してください。
 - Question 1. ようこそ画面
 - Question 2. ライセンス同意書
 - Question 3. iPlanet サーバのインストール
 - Question 4. インストールのタイプ
 - Question 5. インストールの場所 (server-root)
 - Question 6. iPlanet Server Products コンポーネント (この画面上のすべてのコンポーネントを選択します)
 - Question 7. Netscape Server Products Core コンポーネント
 - Question 9. Administration Services コンポーネント
 - Question 10. iPlanet Messaging Applications コンポーネント
 - Question 11. インストール マシンの完全修飾ドメイン名
 - Question 12. System User および System Group
 - Question 16. 既存の Directory Server の登録 (この質問に no と応答します)
 - Question 25. Do you want another Directory Server to store your Users and Groups data? (この質問に yes と応答します)
 - Question 26. Users/Groups Directory Server の完全修飾ドメイン名
 - Question 27. Users/Groups Directory Server が待機するポート番号
 - Question 28. この Users/Groups Directory Server 用の接尾辞

- Question 29. Users/Groups Server Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 21. Directory Server ネットワーク ポート
- Question 22. この Directory Server 用の固有の ID
- Question 19. Configuration Server Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 24. Directory Manager の Bind DN およびパスワード
- Question 20. Administration Domain
- Question 30. Directory Server の複製 (この質問に no と応答します)
- Question 31. サンプル エントリ (この質問に no と応答します)
- Question 32. 新しい Directory Instance にデータを入力する (この質問に suggest と応答します)
- Question 33. スキーマ チェックの無効化 (この質問に no と応答します)
- Question 34. Administration Server ポート
- Question 35. Administration Server を現在のホストのデフォルトの IP アドレスではなく特定の IP アドレスにバインドするか
- Question 36. Administration Server のユーザ名
- Question 37. この Messaging Server 用の固有の ID
- Question 38. Messaging Server のホスト名とドメイン名
- Question 39. Messaging Server のユーザ名
- Question 40. Messaging Server のデフォルト ドメインおよび組織
- Question 42. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をホストする Web サーバのホスト名およびポート
- Question 43. Messaging Server をファイアウォールの背後から実行するかどうかを指定する
- Question 44. プライマリ メッセージストア ディレクトリ
- Question 45. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express 用の TCP/IP ポート番号
- Question 46. Service Administrator のログイン ID およびパスワード
- Question 47. postmaster グループに追加する電子メール アドレス

- Question 48. MMP を実行するユーザ ID
- Question 49. Users/Groups Directory Server 内のドメイン コンポーネント ツリー用の LDAP URL

サイレント インストール

このセクションでは、サイレント インストールを実行するための情報を提供しています。サイレント インストールの詳細については、第 1 章「インストールの概要」28 ページの「サイレント インストール」を参照してください。

注 サイレント インストールを実行するには、前のインストール時のキャッシュ ファイルが必要です。デフォルトで作成されるキャッシュ ファイルは、*server-root/setup/install.inf* です。

1. 必要に応じて *install.inf* キャッシュ ファイルを確認して編集してください。
2. *setup* コマンドを *-s* および *-f filename* オプションを指定して実行します。*filename* は、キャッシュ ファイルの絶対パスおよび名前を示します。例：

```
./setup -s -f /usr/iplanet/server5/setup/install.inf
```

注 この方法でキャッシュ ファイルを使用すると、このインストールでは新しいキャッシュ ファイルは作成されません。

複数の類似のサーバ構成をセットアップする場合は、キャッシュ ファイルとサーバインストール パッケージをそれぞれのマシンに配置することができます。配置した後で、各マシン上にサイレント インストールを実行でき、*setup* プログラムによってインストールを実行するときに必要な情報すべてがキャッシュ ファイルから取り出されます。

ims_dssetup ユーティリティの実行

ims_dssetup ユーティリティは、msg サブディレクトリにあります。これは、Web からアーカイブ ファイルをダウンロードしたサブディレクトリです。CD-ROM の場合は、solaris/iMS/msg ディレクトリにあります。このディレクトリから、次の手順を実行します。

1. ims_dssetup ユーティリティを次のコマンドを指定して実行します。

```
perl5 ims_dssetup.pl
```

注 ims_dssetup.pl ユーティリティは Perl スクリプトです。これを実行するには、システムに perl5 がなければなりません。

2. yes と入力するか、または Return を押して続行します。

ims Directory Server 準備ツールへようこそ。

このツールは、Netscape Directory Server のセットアップを支援し、iPlanet Messaging Server のインストールに使用できるようにします。

続行しますか [y] :

3. Directory Server ルートを指定してください。

Netscape Directory Server がインストールされているディレクトリへの絶対パスを入力してください。

Directory server root [/usr/netscape/server4] :

4. リストから Directory Server インスタンスを選択します。

次のリストからディレクトリ サーバ インスタンスを選択します。

[0] slapd-budgie

どちらのインスタンスを使用しますか [0] :

5. DC ツリーの基本接尾辞を指定するか、または Return を押して、デフォルト値をそのまま使用します。

DC ツリーの基本接尾辞を入力してください [o=internet] :

6. Users/Groups データをセットアップする基本接尾辞を指定します。Return を押して、デフォルト値をそのまま使用します。

Users/Groups データをセットアップする基本接尾辞を入力してください

[o=siroe.com] :

7. yes と応答するか、または Return を押してスキーマ ファイルを更新します。
スキーマ ファイルを更新しますか [yes]:
8. yes と応答するか、または Return を押して新しいインデックスを構成します。
新しいインデックスを構成しますか [yes]:
9. スキーマ ディレクトリを指定します。これは ims_dssetup ユーティリティがあるディレクトリの config サブディレクトリです。
スキーマ ディレクトリを入力してください
[/usr/iplanet/server5/msg/config]:

この時点で、オプションの概略が表示されます。次のものに類似した表示になります。

選択した設定の概略は次のとおりです。

```
Server Root           : /usr/netscape/server4
Server Instance       : slapd-budgie
Update Schema         : yes
DC Root               : o=internet
User/Group Root       : o=siroe.com
Add New Indexes       : yes
Schema Directory      : /usr/iplanet/server5/msg/config
```

10. yes と応答するか、または Return を押して続行するか、あるいは no と応答して、やり直します。
続行しますか [y]:

この時点で、指定した Directory Server の構成が始まります。

高可用性

この付録には、ユーザに適した高可用性モデルを決定する手助けとなり、それらを **Messaging Server** と一緒に実行するためのシステムのセットアップ方法について説明する次のセクションで構成されています。

- 高可用性モデル
- 高可用性のインストール
- **Messaging Server** の複数インスタンスに関する注記

高可用性モデル

Messaging Server とともに使用可能な 3 つの基本高可用性モデルがあります。

- 非対称 (ホットスタンバイ)
- 対称
- N+1

これらのモデルそれぞれは、次のサブセクションで詳細に説明しています。

非対称

基本非対称または「ホットスタンバイ」高可用性モデルは、2 台のクラスタ化ホストマシンまたは「ノード」で構成されます。論理 IP アドレスおよび関連ホスト名は両方のノードに指定されます。

このモデルでは、指定時に 1 つのノードのみがアクティブになります。バックアップまたはホットスタンバイノードはほとんどの間アイドル状態のままになります。両方のノード間の単一の共用ディスクアレイは、構成されアクティブまたは「プライマリ」ノードに指定されます。単一メッセージストアおよび Mail Transport Agent (MTA) キューは、この共用ボリュームに常駐します。また、アクティブノード上では 1 つのメールサービスインスタンスのみ実行します。

図 A-1 は、基本非対称高可用性モデルを示しています。

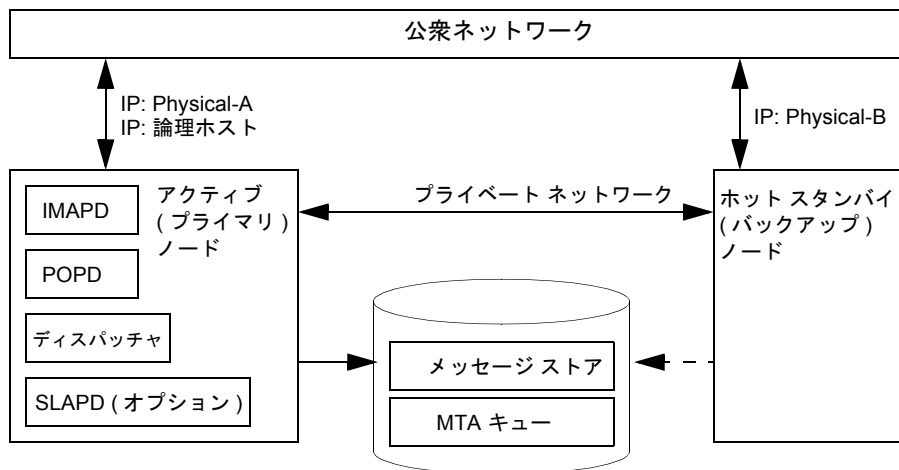


図 A-1 非対称高可用性モデル

フェールオーバー前のアクティブノードは Physical-A で、フェールオーバー時は Physical-B がアクティブノードになって、共用ボリュームが切り替わり、Physical-B に指定されます。すべてのサービスは Physical-A 上で停止し、Physical-B 上で再開します。

このモデルの利点は、バックアップノードがプライマリノード専用で完全に予約されていることです。バックアップノードにはリソース競合はありません。ただし、このモデルは、バックアップノードがほとんどの間アイドル状態にあり、このリソースが完全に利用できないことを意味しています。

対称

基本対称または「デュアルサービス」高可用性モデルは、2台のホストマシンで構成され、それぞれが独自の論理 IP アドレスを持っています。各論理ノードは、1つの物理ノードに関連付けられ、各物理ノードは2つのストレージボリュームを持つ1つのディスクアレイを制御します。1つのボリューム(メッセージストアおよびMTAキュー)は、ローカルメールストア用に使用され、もう1つはパートナーのメールストアのミラーイメージです。

対称高可用性モデルでは、両方のノードは同時にアクティブで、各ノードは他方のバックアップノードとして動作します。通常の条件下では、各ノードはメールサービスの唯一のインスタンスとして実行します。

図 A-2 は、基本対象高可用性モデルを示しています。

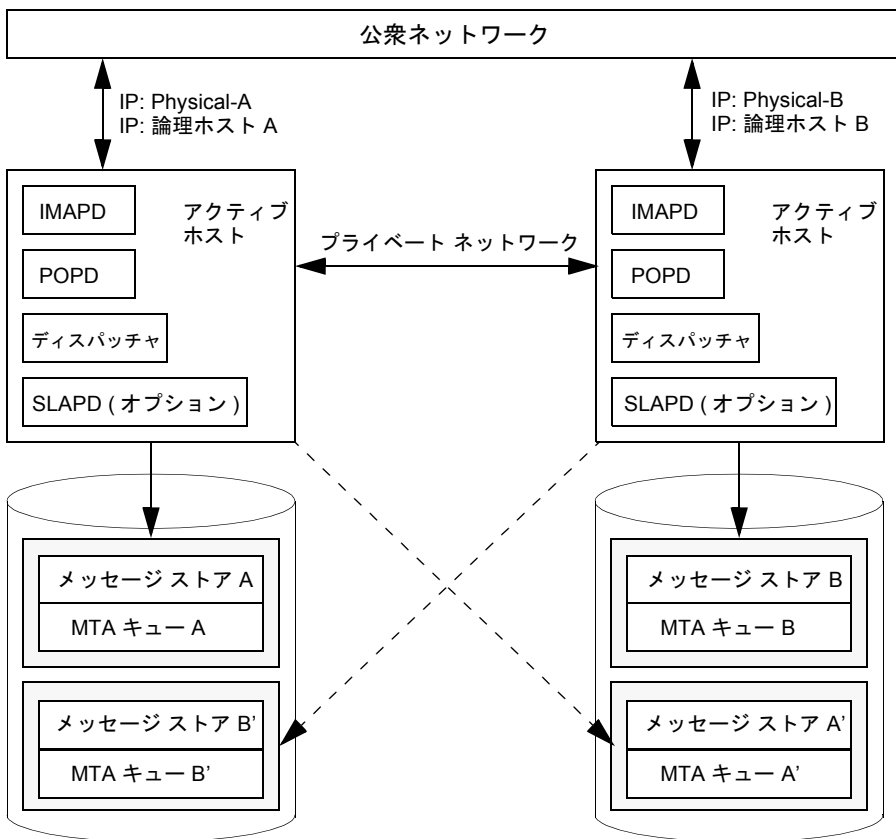


図 A-2 対称高可用性モデル

フェールオーバー時に、障害が発生しているノード上のサービスはシャットダウンされ、バックアップノード上で再起動されます。障害が発生しているノードのメールストアはバックアップノードに切り替わります。この時点で、バックアップノードはメールサーバの2つのインスタンスを実行していて、2つの別々のメールストアボリュームを管理しています。

このモデルの大きな利点は両方のノードが同時にアクティブであり、マシンのリソースを完全に利用できることです。ただし、単一ノード上のメールサーバの複数インスタンスは、CPU時間およびメモリリソースの競合が発生します。したがって、障害が発生しているノードをできる限り素早く修復してサーバをデュアルサービス状態に戻す必要があります。

このモデルでは、バックアップストレージアレイも提供します。ディスクアレイの障害時に、ミラーイメージがバックアップノード上でサービスによって選択されます。

N + 1

N + 1モデルは、複数ノード非対象構成で動作します。N論理ホスト名およびN共用ディスクアレイが必要です。単一バックアップノードはその他すべてのノード用のホットスタンバイとして予約されています。バックアップノードは、メールサーバのNインスタンスまで実行できます。

図 A-3 は、基本 N + 1 高可用性モデルを示しています。

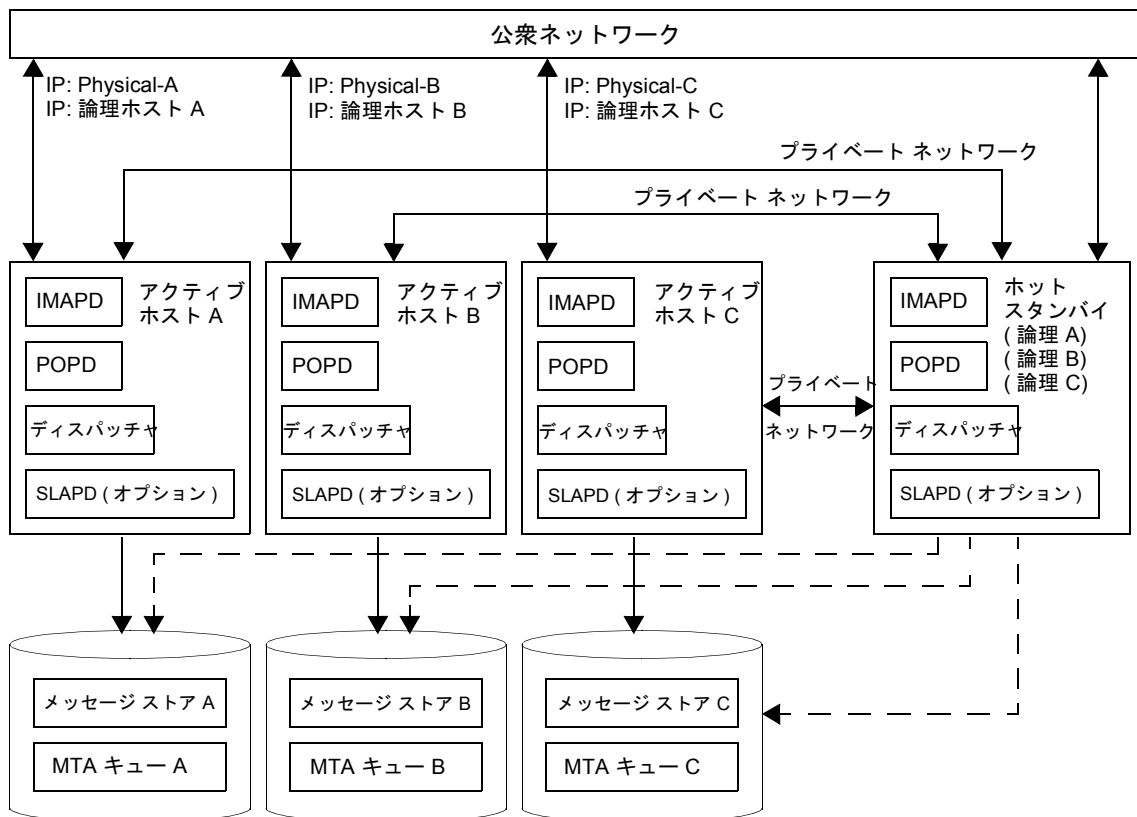


図 A-3 N + 1 高可用性モデル

1つまたは複数のアクティブノードのフェールオーバー時に、バックアップノードが障害の発生しているノードの責任を引き受けます。

N+1モデルの利点は、サーバの不可が複数のノードに分配でき、すべてのノード障害を1つのバックアップノードのみで支えることができる点です。したがって、マシンのアイドル比率は単一の非対称モデルの1/1に対して1/Nになります。

適切な高可用性モデルの選択

表 A-1 は、各高可用性モデルの利点と欠点について要約しています。この情報を使用して、どのモデルがユーザに適しているかを決定する手助けとしてください。

表 A-1 高可用性モデルの利点と欠点

モデル	利点	欠点	推奨ユーザ
非対称	<ul style="list-style-type: none"> 簡易構成 バックアップ ノード 100% 予約済み 	<ul style="list-style-type: none"> マシン リソースが完全には利用されていない 	将来拡張を計画している小規模 サービス プロバイダ
対称	<ul style="list-style-type: none"> システム リソースの よりよい使用 より高い可用性 	<ul style="list-style-type: none"> バックアップ ノード上のリソース競合 ミラー ディスクによりパフォーマンスが低下する 	近い将来のバックアップ システムの拡張計画のない中規模 サービス プロバイダ
N + 1	<ul style="list-style-type: none"> 負荷の分配 簡単な拡張 	<ul style="list-style-type: none"> 構成の複雑性 	リソース競合のない分配が必要な大規模 サービス プロバイダ

システム停止時間の計算

表 A-2 は、任意の指定日にメール サービスがシステムの障害により利用できなくなる可能性を示しています。これらの計算は、システム クラッシュまたはサーバ ハングによって各サーバが 3 ヶ月ごとに 1 日停止するという平均、および各ストレージ デバイスが 12 ヶ月ごとに 1 日停止すると想定しています。また、両方のノードが同時に停止するわずかな可能性は考慮していません。

表 A-2 システム停止時間の計算

モデル	サーバ停止時間の可能性
単一サーバ (高可用性なし)	$\text{Pr}(\text{停止}) = (\text{システム停止 4 日} + \text{ストレージ停止 1 日}) / 365 = 1.37\%$
非対称	$\text{Pr}(\text{停止}) = (\text{システム停止 0 日} + \text{ストレージ停止 1 日}) / 365 = 0.27\%$
対称	$\text{Pr}(\text{停止}) = (\text{システム停止 0 日} + \text{ストレージ停止 } +0 \text{ 日}) / 365 = (\text{ほぼ } 0)$
N + 1	$\text{Pr}(\text{停止}) = (\text{システム停止 0 日} + \text{ストレージ停止 1 日}) / (365 \times N) = 0.27\% / N$

高可用性のインストール

このセクションでは、Veritas Cluster Server 1.1 以降または SunCluster 2.2 高可用性クラスタ化ソフトウェアのインストールおよび Messaging Server とともに使用するための準備に必要な情報を提供します。

このセクションで使用されている例は、簡単な 2 つのノードのクラスタ サーバ (非対称モデル) に基づいています。インストール手順および情報の詳細については、お手持ちの Veritas Cluster Server のマニュアルを参照してください。

基本非対称モデルでは、1 つの公衆ネットワーク インタフェースと 2 つのプライベート ネットワーク インタフェースおよび 1 つの共用ディスクが必要です。プライベート 新しいインタフェースは、クラスタ ハートビート接続に使用されます。共用ディスクは、SCSI ファイバチャネル コネクタを介して両方のノードに接続され、両側の SCSI ID が異なっている必要があります。

クラスタ エージェントのインストール

クラスタ エージェントは、クラスタ フレームワーク上で実行する Messaging Server API プログラムです。Messaging Server 5.0 のインストール プロセスで、High Availability コンポーネントをインストールするよう選択した場合は、`setup` プログラムではサーバ上にインストールされているクラスタ化ソフトウェアを自動的に検出して、適切な場所に適切なエージェント プログラムのセットをインストールします。

注 `setup` プログラムでは、サーバ上に 1 セットのエージェントのみをコピーするので、サーバには 1 つのタイプのクラスタ化ソフトウェアのみをインストールして構成してください。

Veritas Clustering Software 1.1 以降の場合、エージェント タイプ ファイルは `/etc/VRTSvcs/conf/config` ディレクトリにあり、エージェント プログラムは `/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv` ディレクトリにあります。SunCluster 2.2 の場合、エージェントは `/opt/SUNWcluster/ha/msg` ディレクトリにインストールされています。

Messaging Server のインストールおよび高可用性に関する注意事項：

- `server-root` を要求された場合は (第 2 章「インストールの質問」のステップ 5 を参照)、共用ストレージ ボリューム上にあることを確認してください。それ以外の場合は、高可用性が機能しません。

- コンピュータ名を要求された場合は (第 2 章 「インストールの質問」 のステップ 11 を参照)、物理ホスト名ではなく、Messaging Server がインストールされているマシンの論理ホスト名を指定してください。
- Directory Server 識別子を要求された場合は (第 2 章 「インストールの質問」 のステップ 22 を参照)、物理ホスト名ではなく、Directory Server がインストールされているマシンの論理ホスト名を指定してください。
- IP アドレスを要求された場合は (第 2 章 「インストールの質問」 のステップ 35 を参照)、物理ホスト マシンではなく、論理ホスト マシンの IP アドレスを指定してください。

Veritas Cluster Server 1.1 以降の高可用性ソフトウェアを使用している場合は、78 ページの「Veritas Cluster Server エージェントのインストール」に進んでください。SunCluster 2.2 高可用性ソフトウェアを使用している場合は、83 ページの「SunCluster エージェントのインストール」に進んでください。

Veritas Cluster Server エージェントのインストール

どの高可用性モデルを実装するかを決定したら、Veritas Cluster Server ソフトウェアをインストールして Messaging Server とともに使用する準備ができます。このセクションの手順は、Messaging Server をインストールする前に完了する必要があります。

注 Veritas Cluster Server の概念とコマンドの知識があることを想定しています。

インストール前の指示手順

このセクションでは、Veritas Cluster Server をインストールし、Messaging Server とともに使用するための準備を行う手順を説明しています。

Veritas Cluster Server を Messaging Server とともに使用するためにインストールおよびセットアップするには次の手順に従ってください。

1. Veritas Cluster Server 1.1 以降を両方のノードにインストールします。
2. Veritas Cluster Server を構成して開始します。

注 この最初の 2 つの手順の詳細については、お手持ちの Veritas Cluster Server のマニュアルを参照してください。

3. `/etc/VRTSvcs/conf/config/main.cf` ファイルを作成します。
4. `iMS5` という名前のサービス グループを作成します。

このサービス グループ内で次のことを行います。

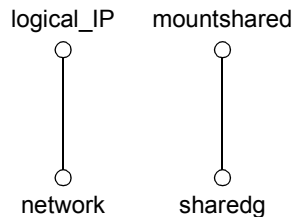
- a. `network` リソースを作成します (NIC をリソース タイプとして指定します)。

公衆ネットワーク インタフェース名を `Device` 属性に使用します (例えば、`hme0`)。
 - b. `logical_IP` リソースを作成します (IP をリソース タイプとして指定します)。

論理 IP を `Address` 属性に、公衆インタフェースを `Device` 属性に使用します。
 - c. `sharedg` リソースを作成します (`DiskGroup` をリソース タイプとして指定します)。

ディスク グループ名を `DiskGroup` 属性として使用します。
 - d. `mountshared` リソースを作成します (`Mount` をリソース タイプとして指定します)。

共用デバイス名 `BlockDevice` を使用し、`MountPoint` をマウント ポイントとして指定して、`FSType` を適切なファイル システム タイプに設定します。
5. 上記すべてのリソースをプライマリ (アクティブ) ノード上でオンラインにします。
 6. 次の手順で、依存性ツリーを開始します。`logical_IP` リソースは `network` リソースに依存し、`mountshared` リソースは `sharedg` リソースに依存します。依存性ツリーは次のようになります。



High Availability コンポーネントのインストール

この時点で、Veritas Cluster Server が正常にインストールされ、Messaging Server インストールの準備ができていることを想定しています。最初のノードに Messaging Server をインストールしなければなりません。2 番目のノードには High Availability コンポーネントのみをインストールする必要があります。これを行うには、iPlanet Server Products メニューから iPlanet Messaging Suite コンポーネントのみを選択し、iPlanet Messaging Applications メニューから High Availability コンポーネントのみを選択します。

Messaging Server のインストールを実行すると、setup プログラムによって、Veritas Cluster Server がインストールされ、適切に構成されているかどうかチェックされます。正常にインストールされ、構成されていることが確認されると、高可用性ファイルがインストールされます。

インストール後の手順

これらの手順が完了したら、2 番目のノード上で次の手順を実行する必要があります。

1. logical_IP および共用ディスクを 2 番目のノードに切り替えます。
2. 2 番目のノード上で setup プログラムを実行して Messaging Server のインストールを開始します。

```
./setup
```
3. インストール タイプのリストから Custom インストールを選択して、iPlanet Messaging Applications コンポーネント内の高可用性パッケージのみを選択します。

Veritas Cluster Server ソフトウェアをインストールしたマシン上で次のことを実行します。

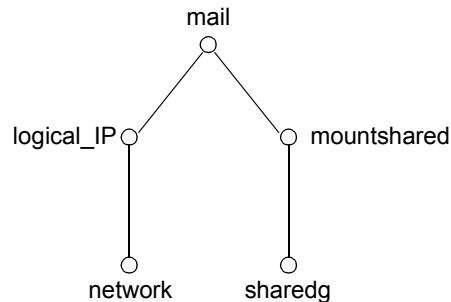
1. Veritas Cluster Server を停止します。
2. main.cf に次の行を追加します。

```
include "MsgSrvTypes.cf"
```
3. Veritas Cluster Server を開始します。
4. mail という名前のリソースを作成して (MsgSrv をリソースタイプとして指定します)、インスタンス名 (InstanceName) およびログ ホスト名 (LogHostName) を入力します。

5. logical_IP および mountshared リソースを mail リソースの子として設定します。

これは、logical_IP および mountshared リソースの両方が mail リソースに依存することを意味します。

この場合の依存性ツリーは次のようになります。



これで準備ができました。任意のノード上で、mail リソースをオンラインにします。これにより、そのノード上のメールサーバが自動的に開始します。

Veritas Cluster Server 用に高可用性コンポーネントを構成する

高可用性コンポーネントを Veritas Cluster Server 用に構成するには、MsgSvrType 構成ファイル内にパラメータを変更します。関連エントリを次に示します。

```

type MsgSrv (
    static int MonitorInterval = 180
    static int MonitorTimeout = 180
    static int OnlineRetryLimit = 1
    static int OnlineWaitLimit = 1
    static int RestartLimit = 2
    static str ArgList[] = { State, InstanceName, LogHostName,
PrtStatus, DebugMode }
    NameRule = resource.InstanceName
    str InstanceName
    str LogHostName
    str PrtStatus
    str DebugMode
)
  
```

表 A-3 は、さまざまなパラメータについて説明しています。

表 A-3 MsgSrv パラメータ

パラメータ	説明
MonitorInterval	各検索の間の秒数。
MonitorTimeout	検索がタイムアウトするまでの秒数。
OnlineRetryLimit	オンラインを再試行する回数。
OnlineWaitLimit	オンライン手順を完了した後、リソースがオンラインになるまでに待機する MonitorInterval の回数。
RestartLimit	リソースがフェールオーバーするまでに再始動する回数。

表 A-4 は、さまざまな引数について説明しています。

表 A-4 MsgSrv 引数

パラメータ	説明
State	このシステム上でサービスがオンラインかどうかを示します。この値はユーザが変更することはできません。
InstanceName	msg- 接頭辞のない Messaging Server のインスタンス名。
LogHostName	このインスタンスに関連付けられている論理ホスト名。
PrtStatus	TRUE に設定されている場合は、オンラインステータスは Veritas Cluster Server ログファイルに出力されます。
DebugMode	TRUE に設定されている場合は、デバッグ情報が Veritas Cluster Server ログファイルに出力されます。

SunCluster エージェントのインストール

どの高可用性モデルを実装するかを決定したら、SunCluster 高可用性ソフトウェアをインストールして Messaging Server とともに使用する準備ができます。このセクションの手順は、Messaging Server をインストールする前に完了する必要があります。

注 SunCluster の概念とコマンドの知識があることを想定しています。

インストール前の指示手順

このセクションでは、SunCluster ソフトウェアをインストールし、Messaging Server とともに使用するための準備を行う手順を説明しています。

SunCluster を Messaging Server とともに使用するためにインストールおよびセットアップするには次の手順に従ってください。

1. SunCluster 2.2 を両方のノードにインストールします。

注 HA フォールト モニタ エージェントでは、SunCluster 2.2 SUNWscpro パッケージの tcpclnt バイナリ ファイルが必要です。したがって、検索機能を完全に利用するには、このパッケージもインストールする必要があります。

2. SunCluster を構成して開始して、論理 IP および共用ボリュームの両方にアクセスできるようにします。

注 この最初の 2 つの手順の詳細については、お手持ちの SunCluster のマニュアルを参照してください。

High Availability コンポーネントのインストール

この時点で、SunCluster ソフトウェアが正常にインストールされ、Messaging Server インストールの準備ができていることを想定しています。最初のノードに Messaging Server をインストールしなければなりません。2 番目のノードには High Availability コンポーネントのみをインストールする必要があります。これを行うには、iPlanet Server Products メニューから iPlanet Messaging Suite コンポーネントのみを選択し、iPlanet Messaging Applications メニューから High Availability コンポーネントのみを選択します。

Messaging Server のインストールを実行すると、`setup` プログラムによって、SunCluster ソフトウェアがインストールされ、適切に構成されているかどうかをチェックされます。正常にインストールされ、構成されていることが確認されると、高可用性ファイルがインストールされます。

インストール後の手順

これらの手順を完了した後に、`server-root/bin/msg/ha/sc/config/ims_ha.cnf` ファイルを共用ディスク マウント ポイント ディレクトリ (例えば、共用ディスクが `/mnt` ディレクトリにインストールされている場合は `/mnt`) にコピーする必要があります。

また、Messaging Server データ サービスを使用する前に `hareg -Y` コマンドを実行して先に登録する必要があります。

論理ホスト タイムアウト値を変更する場合は、次のコマンドを使用します。

```
scconf cluster_name -l seconds
```

`cluster_name` は、クラスタの名前、`seconds` は、タイムアウト値として設定する秒数です。秒数は、起動が完了するのに必要な秒数の 2 倍でなければなりません。詳細については、お手持ちの SunCluster マニュアルを参照してください。

Directory Server の構成

Directory Server を Messaging Server と同じ `server-root` にインストールする場合は、追加の SunCluster エージェント ファイルは必要ありません。それ以外の場合は、既存の Sun 提供エージェント パッケージが利用できます。パッケージは SUNWscnsl で、Sun の SunCluster チームによってサポートされています。

Messaging Server の複数インスタンスに関する注記

Symmetric または N + 1 高可用性モデルを使用している場合は、インストールおよび構成時に Cluster Server を Messaging Server の複数インスタンス用に準備するためのいくつかの追加考慮事項があります。

2 番目のサービス グループの作成

Veritas Cluster Server 1.1 以降を使用している場合は、以前に作成した iMS5 グループに加えて 2 番目のサービス グループを作成する必要があります。このグループは、iMS5 と同じリソース セットおよび同じ依存性ツリーを持っていない限りなりません。

SunCluster 2.2 を使用している場合は、異なる論理 IP および共用ボリュームで構成される別の論理ホストを作成してください。新しいインスタンスをこのボリュームにインストールできます。

注 hareg -y コマンドを使用して SunCluster 2.2 を開始するときに、各ノード上に 1 つのインスタンスのみがあることを確認してください。SunCluster 2.2 では、このコマンドを使用して 1 つのノード上で複数の論理 IP を開始することはできません。

インストールに関する注意

Messaging Server のインストール時に、インストールプロセス中にすべてのメールサービスがオフラインになっていることを確認してください。メールサービスが実行中であると、Messaging Server のインストールに影響します。

構成に関する注意

同じサーバ上で実行している Messaging Server の複数インスタンスでは、各インスタンスに正しい IP アドレスが割り当てられていることが必要です。次のサブセクションでは、IP アドレスを各インスタンスにバインドする方法を説明します。これが正しく行なわれていない場合は、複数インスタンスが互いに干渉し合います。

IMAP/POP3 サーバの IP アドレスのバインド

次のように `configutil` コマンドを使用します。

```
configutil -o service.listenaddr -v IP_address
```

`IP_address` は、サービスのバインド先のアドレスです。

SMTP サービスの IP アドレスのバインド

次の行を `dispatcher.cnf` ファイルの `SERVICE=SMTP` セクションに追加します。

```
INTERFACE_ADDRESS=IP_address
```

SMTP_SUBMIT サービスの IP アドレスのバインド

次の行を `dispatcher.cnf` ファイルの `SERVICE=SMTP_SUBMIT` セクションに追加します。

```
INTERFACE_ADDRESS=IP_address
```

LDAP サービスの IP アドレスのバインド

次の行を `slapd.conf` ファイルに追加します。

```
listenhost IP_address
```

デフォルトの tcp_port 番号の変更

`job_controller.cnf` ファイルの `tcp_port` 番号は、それぞれのインスタンスで異なっている必要があります。`tcp_port` 番号が同じ場合は、それぞれが異なるように変更してください。

Messaging Multiplexor のインストール

この付録では、Messaging Multiplexor をインストールし、構成するための支援となる次のセクションで構成されています。

- Multiplexor のインストールと構成
- Multiplexor の開始
- Messaging Topology のサンプル

Multiplexor のインストールと構成

Messaging Multiplexor (MMP) は、iPlanet Messaging Server の一部として利用できます。MMP は、Messaging Server のインストールと同時にインストールすることもできますが、後で `setup` プログラムを使用してインストールすることもできます。どちらの方法でも、MMP をサポートするようにシステムを準備する必要があります。

MMP の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- iPlanet Messaging Server 5.0 Administrator's Guide
- iPlanet Messaging Server 5.0 Reference Manual

インストールの前に

MMP をインストールする前に、次の手順を実行してください。

1. MMP をインストールするマシンを選択します。MMP は、Messaging Server または Directory Server を実行しているシステムにインストールしないことをお勧めします。MMP には別のマシンを使用するのが最適です。
2. システムが iPlanet Messaging Server を使用するためのハードウェアおよびソフトウェア要件すべてを満たしていることを確認します。インストール要件の詳細については、14 ページの「システム要件」を参照してください。
3. MMP をインストールするマシン上で、MMP によって専用で使用される新しいユーザを作成します。新しいユーザは、1 つのグループに属している必要があります。そのユーザに推奨する名前は nsmmp または nsmail です。デフォルトは mmprsv です。
4. LDAP Directory Server およびホストマシンを Messaging Server とともに使用するためのセットアップを行っていない場合は、ここで設定します。詳細については、お手持ちの Directory Server マニュアルを参照してください。
5. 既に古いバージョンの MMP がインストールされていて置換する場合は、新しいバージョンをインストールする前に古いバージョンの MMP を削除する必要があります。これを行うには、*server-root* にある Messaging Server `uninstall` スクリプトを実行します。

Multiplexor ファイル

Messaging Multiplexor ファイルは、*server-root* の *mmp-hostname* サブディレクトリに格納されています。各 MMP インスタンスは表 B-1 に説明されているファイルを含むそれぞれ個別の *mmp-hostname* ディレクトリを持っています。

表 B-1 Messaging Multiplexor ファイル

ファイル	説明
PopProxyAService.cfg	POP サービスに使用される環境変数を指定する構成ファイル。
ImapProxyAService.cfg	IMAP サービスに使用される環境変数を指定する構成ファイル。
AService.cfg	どのサービスを開始するかを指定し、POP および IMAP サービスの両方で共用されるいくつかのオプションを指定する構成ファイル。

表 B-1 Messaging Multiplexor ファイル (Continued)

ファイル	説明
AService.rc	MMP を開始、停止、再開、または再ロードするために使用する実行可能ファイル。詳細については、96 ページの「Multiplexor の開始」を参照してください。

Multiplexor のインストール

MMP をインストールするには、Messaging Multiplexor をインストールするかを選択するオプションを提供する Messaging Server setup プログラムを使用する必要があります。セットアッププログラムの詳細については、『*iPlanet Messaging Server Installation Guide*』を参照してください。

注 MMP は、Messaging Server または Directory Server を実行しているシステムにインストールしないことをお勧めします。

いつでも setup プログラムを実行して MMP をインストールできます。setup プログラムの使用手順については、『*Messaging Server Installation Guide*』を参照してください。

注 MMP はデフォルトではインストールされません。Messaging Server のインストール時に Messaging Server Applications コンポーネントの一部として選択する必要があります。

MMP をインストールするには、次の手順に従ってください。

1. Messaging Server setup プログラムを実行します。

```
./setup
```

2. 以下の質問に「はい」と応答するか、または Return を押してインストールを継続します。

```
Welcome to the iPlanet Server Products installation program. This program will install iPlanet
Server Products and the iPlanet Console on your computer.
```

```
It is recommended that you have "root" privilege to install the software.
```

Tips for using the installation program:

- Press "Enter" to choose the default and go to the next screen
- Type "Control-B" to go back to the previous screen
- Type "Control-C" to cancel the installation program
- You can enter multiple items using commas to separate them.

For example: 1, 2, 3

Would you like to continue with installation? [Yes]:

3. ライセンス契約書を読んで、次の質問に yes と応答して続行します。ライセンス契約書は、インストール ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリ内の LICENSE.txt ファイルにあります。

BY INSTALLING THIS SOFTWARE YOU ARE CONSENTING TO BE BOUND BY AND ARE BECOMING A PARTY TO THE AGREEMENT FOUND IN THE LICENSE.TXT FILE. IF YOU DO NOT AGREE TO ALL OF THE TERMS OF THIS AGREEMENT, PLEASE DO NOT INSTALL OR USE THIS SOFTWARE.

Do you agree to the license terms? [No]:

4. 以下の中からオプション 1 を選択します。

Select the items you would like to install:

1. iPlanet Servers

Installs iPlanet Servers with the integrated Netscape Console onto your computer.

2. Netscape Console

Installs Netscape Console as a stand-alone Java application on your computer.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Select the component you want to install [1]:

5. 次のメニューから「一般的なインストール」または「カスタム インストール」を選択してください。

注

Messaging Multiplexor を「Express インストール」でインストールすることはできません。「一般的なインストール」または「カスタムインストール」を使用してください。

Choose an installation type:

1. Express installation

Allows you to quickly install the servers using the most common options and pre-defined defaults. Useful for quick evaluation of the products.

2. Typical installation

Allows you to specify common defaults and options.

3. Custom installation

Allows you to specify more advanced options. This is recommended for experienced server administrators only.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Choose an installation type [2]:

6. 希望のインストール場所を指定するか、または **Return** を押して、デフォルト値をそのまま使用します。

This program will extract the server files and install them into a directory you specify. That directory is called the server root in the product documentation and will contain the server programs, the Administration Server, and the server configuration files.

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Install location [/usr/iplanet/server5]:

7. 次のメニューからオプション 4 を選択します。

iPlanet Server Products components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]:

8. 次のメニューからオプション 3 を選択します。

iPlanet Messaging Suite components:

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. iPlanet Message Store and Message Access
2. iPlanet Internet Message Transport Agent
3. iPlanet Messaging Multiplexor
4. High Availability for iPlanet Messaging Server
5. iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities

Specify the components you wish to install [1, 2, 5]:

9. インストール マシンの完全修飾ドメイン名を指定します。

Enter the fully qualified domain name of the computer on which you're installing server software. Using the form <hostname>.<domainname>0

To accept the default shown in brackets, press the Enter key.

Computer name [budgie.siroe.com]:

10. システム ユーザとシステム グループを指定します。

Choose a Unix user and group to represent the iPlanet server in the user directory. The iPlanet server will run as this user. It is recommended that this user should have no privileges in the computer network system. The Administration Server will give this group some permissions in the server root to perform server-specific operations.

If you have not yet created a user and group for the iPlanet server, create this user and group using your native UNIX system utilities.

To accept the default shown in brackets, press the Return key.

System User [nobody]:

11. MMP を実行するユーザ ID を選択します。

The Mail Multiplexor runs as a privileged user. The account should already exist on the system and should be a member of the iPlanet Group.

Please enter the Mail Multiplexor user [mmpsrv]:

この時点で、インストールが開始されます。インストールが進むとさまざまなメッセージが表示されます。

インストール後の手順

Messaging Server デフォルトディレクトリ ACI では、Directory Server に対して認証ユーザへのバインドが必要です。これは、MMP を開始する前に BindDN オプションおよび BindPass オプションを設定する必要があることを意味します。

これを行うための推奨手順は、local.ldapsiedn および local.ldapsiecred の値を Messaging Server インストールから MMP インストールの BindDN オプションおよび BindPass オプションにコピーすることです。これらのオプションは、ImapProxyAservice.cfg および PopProxyAservice.cfg 構成ファイル内にあります。

また、エンドユーザが Directory Manager DN (例えば、cn=Directory Manager) およびインストール中に指定されたパスワードを使用して BindDN および BindPass を設定することもできます。

注 パスワードは、秘密の単語で、推測しやすい単語にしないことが重要です。

SSL を使用するための MMP の構成

SSL を使用するために MMP を構成するには、次の手順に従ってください。

注 MMP は Message Store または MTA を持たないマシン上にインストールされていると想定します。

1. Administration Console、Administration Server、および MMP をマシンにインストールします。

既に Messaging Server Message Store として構成されている別のマシン上の Directory Server に MMP をポイントします。

2. `server-root` に移動して `startconsole` を実行して Netscape Console にログインします。

```
./startconsole
```

3. MMP サーバ用の「サーバグループ」を開きます。

MMP サーバは表示されませんが、Administration Server が表示されます。
[Administration Server] アイコンをダブルクリックします。

4. [構成] タブをクリックして、[暗号化] タブをクリックします。

5. [Certificate Setup Wizard] をクリックします。

セットアップウィザードが証明書要求手順を示します。

6. 証明書を [This Server] 用の証明書としてインストールします。

7. コマンドラインから、簡便性のための次のシンボリックリンクを作成します。

```
cd server-root/mmp-hostname
ln -s ../alias/admin-serv-instance-cert7.db cert7.db
ln -s ../alias/admin-serv-instance-key3.db key3.db
ln -s ../admin-serv/config/secmod.db secmod.db
```

また、これらのファイルが MMP を実行するユーザ ID によって所有されていることを確認します。

8. このディレクトリに `sslpassword.conf` ファイルを作成します。

このファイルには、次のものが含まれます。

```
Communicator Certificate DB:password
```

`password` は、Certificate Setup Wizard で指定したパスワードです。

9. `ImapProxyAService.cfg` ファイルを編集して、すべての SSL 設定をコメント解除します。

10. SSL および POP が必要な場合は、`PopProxyAService.cfg` ファイルを編集して、すべての SSL 設定をコメント解除します。

また、`AService.cfg` ファイルを編集して、"`|995`" を `ServiceList` 設定の "`110`" の後に追加します。

11. `BindDN` オプションおよび `BindPass` オプションは、`ImapProxyAService.cfg` ファイルおよび `PopProxyAService.cfg` ファイル内に設定されます。

これらの値を Messaging Server の `local.ugldapbinddn` オプションおよび `local.ugldapbindered configutil` オプションからコピーすることができますが、検索権限 (プレーンテキスト サポート用) または検索権限およびユーザパスワード読み取り権限 (CRAM-MD5/APOP サポート用) を持つ新しいユーザを作成することもできます。また、デフォルト ドメイン (非修飾ユーザ名に使用するドメイン) に `DefaultDomain` オプションを設定する必要があります。

サーバ側 SSL サポートのみが必要な場合は、ここで終了です。MMP を次のコマンドで開始します。

```
AService.rc start
```

クライアント側 SSL サポートが必要な場合は、次の手順を実行します。

12. クライアント証明書および署名した CA 証明書のコピーを取得します。これは、iPlanet Web サイトから入手可能な Netscape CMS 4.1 を使用して実行できます。

13. 前述のように Netscape Console および Certificate Wizard を開始して (MMP と同じマシン上で)、今回は CA 証明書を [Trusted Certificate Authority] としてインポートします。

14. Store Administrator を作成します。

詳細については、『*iPlanet Messaging Server 5.0 Administrator's Guide*』を参照してください。

15. MMP 用の `certmap.conf` ファイルを作成します。例：

```
certmap default      default
default:DNComps
default:FilterComps e=mail
```

これは、LDAP サーバ内の "mail" を検索することによって、属性証明書 DN 内の "e" フィールドと一致するものを検索することを意味します。

16. `ImapProxyAService.cfg` ファイルを編集して、次を行います。
- `CertMapFile` を `certmap.conf` 設定します。
 - `StoreAdmin` および `StorePass` をステップ 14 からの値に設定します。
 - `CertmapDN` を `Users/Groups` ツリーのルートに設定します。
17. POP3 のクライアント証明書が必要な場合は、`PopProxyAService.cfg` ファイルでステップ 16 を繰り返します。
18. MMP が実行されていない場合は、次のコマンドで開始します。

```
AService.rc start
```

または

```
AService.rc restart
```

19. クライアント証明書を自身のクライアントにインポートします。Netscape で、`padlock (Security)` アイコンをクリックして、[証明書] の [Yours] を選択し、[Import a Certificate...] を選択して手順に従ってください。

注 クライアント証明書をすべての場所で使用する場合は、貴社のすべてのユーザがこの手順を実行する必要があります。

追加インスタンスの作成

Messaging Server setup プログラムを使用して、最初のインストール後に MMP の新しいインスタンスを作成します。最初のインスタンスを作成したときと同じインストール手順を実行します。同じ質問を尋ねられます。セットアッププログラムでは `server-root` に新しいインスタンスを自動的に作成します。例えば、`tarpit` という名前のマシンにインストールしている場合、作成した最初のインスタンスは `mmp-tarpit` で、2 番目のインスタンスは `mmp-tarpit-1` になります。

既存のインスタンスの変更

MMP の既存のインスタンスを変更するには、必要に応じて `ImapProxyAService.cfg` 構成ファイルまたは `PopProxyAService.cfg` 構成ファイル、あるいはその両方を編集します。これらの構成ファイルは、`mmp-hostname` サブディレクトリにあります。

Multiplexor の開始

Messaging Multiplexor のインスタンスを開始するには、`server-root/mmp-hostname` ディレクトリ内の `AService.rc` スクリプトを実行します。

```
./AService.rc [options]
```

`AService.rc` スクリプトのオプション パラメータは、表 3-2 に説明があります。

表 3-2 AService.rc スクリプトのオプション パラメータ

オプション	説明
<code>start</code>	MMP を開始します (既に 1 つが実行中でも)。
<code>stop</code>	最も新しく開始された MMP を停止します。
<code>restart</code>	最も新しく開始された MMP を停止し、1 つの MMP を開始します。
<code>reload</code>	既に実行中の MMP がアクティブな接続を中断せずに構成を再読み込みするようにします。

Messaging Topology のサンプル

架空の Siroe Corporation は、2 つの Multiplexors をそれぞれが複数の Messaging Server をサポートしている別々のマシンに持っています。POP および IMAP ユーザーメールボックスは、Messaging Server マシン間で分割され、各サーバが POP または IMAP 専用になっています (IMAP サーババイナリを削除することによって POP サービスへのクライアント アクセスのみを制限することができ、同様に POP サーババイナリを削除することによって IMAP サービスへのクライアント アクセスのみを制限することができます)。それぞれの Multiplexor も POP または IMAP のみをサポートします。LDAP ディレクトリ サービスは、別の専用マシン上にあります。

このトポロジは 図 3-1 に図示されています。

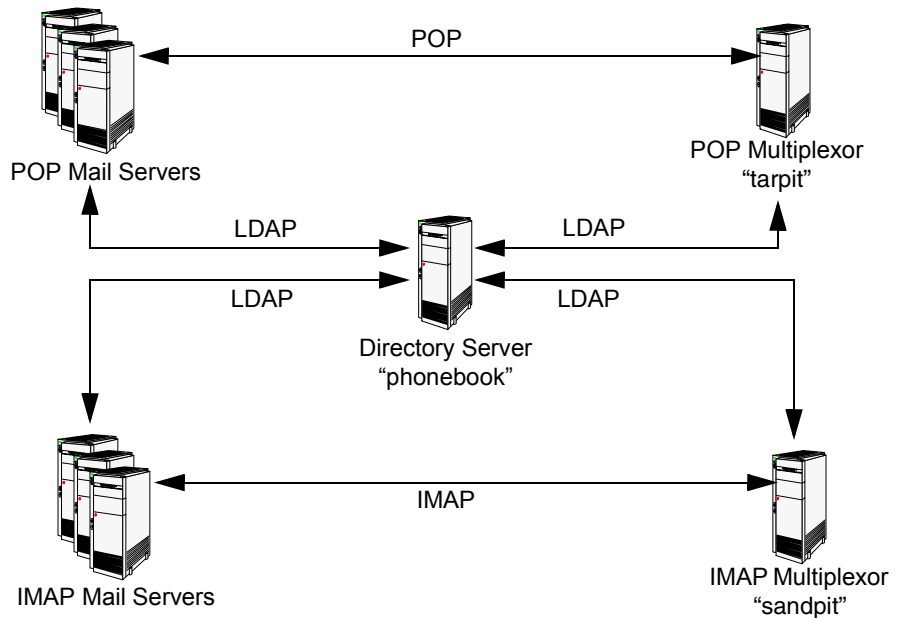


図 3-1 複数 Messaging Server をサポートする複数 MMP

IMAP 構成例

図 3-1 の IMAP Multiplexor は、sandpit 上にインストールされます。このマシンは 2 つのプロセッサを備えています。この Multiplexor は、IMAP 接続 (143) に標準ポートを待機しています。Multiplexor は、ユーザのメールボックス情報についてホスト phonebook 上の LDAP サーバと通信し、接続を適切な IMAP サーバにルーティングします。これは、IMAP 機能文字列をオーバーライドし、仮想ドメインファイルを提供して SSL 通信をサポートします。

次に示すのは、その ImapProxyAService.cfg 構成ファイルです。

```

default:LdapUrl          ldap://phonebook/o=Siroe.com
default:LogDir           /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/log
default:LogLevel        5
default:BindDN           "cn=Directory Manager"
default:BindPass         secret
default:BacksidePort    143
default:Timeout          1800
default:Capability       "IMAP4 IMAP4rev1 ACL QUOTA LITERAL+ NAMESPACE
UIDPLUS CHILDREN LANGUAGE XSENDER X-NETSCAPE XSERVERINFO AUTH=PLAIN"
default:SearchFormat     (uid=%s)
default:SSLEnable        yes
default:SSLPorts         993
default:SSLSecmodFile    /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/secmod.db
default:SSLCertFile      /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/cert7.db
default:SSLKeyFile       /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/key3.db
default:SSLKeyPasswdFile ""
default:SSLCipherSpecs  all
default:SSLCertNicknames Siroe.com Server-Cert
default:SSLCacheDir      /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit
default:SSLBacksidePort  993
default:VirtualDomainFile /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/vdmap.cfg
default:VirtualDomainDelim @
default:ServerDownAlert "your IMAP server appears to be temporarily out of
service"
default:MailHostAttrs    mailHost
default:PreAuth          no
default:CRAMs            no
default:AuthCacheSize    10000
default:AuthCacheTTL     900
default:AuthService      no
default:AuthServiceTTL   0
default:BGMax            10000
default:BGPenalty        2
default:BGMaxBadness     60
default:BGDecay          900
default:BGLinear         no
default:BGExcluded       /usr/iplanet/server5/mmp-sandpit/bgexcl.cfg
default:ConnLimits       0.0.0.0|0.0.0.0:20
default:LdapCacheSize    10000
default:LdapCacheTTL     900
default:HostedDomains    yes
default:DefaultDomain    Siroe.com

```

POP 構成例

図 3-1 の POP Multiplexor 例は、tarpit 上にインストールされます。このマシンは 4 つのプロセッサを備えています。この Multiplexor は、POP 接続 (10) に標準ポートを待機しています。Multiplexor は、ユーザのメールアドレス情報についてホスト phonebook 上の LDAP サーバと通信し、接続を適切な POP サーバにルーティングします。また、スプーフメッセージファイルも提供します。

次にその PopProxyAService.cfg 構成ファイルを示します。

```

default:LdapUrl          ldap://phonebook/o=Siroe.com
default:LogDir           /usr/iplanet/server5/mmp-tarpit/log
default:LogLevel        5
default:BindDN           "cn=Directory Manager"
default:BindPass         password
default:BacksidePort     110
default:Timeout          1800
default:Capability       "IMAP4 IMAP4rev1 ACL QUOTA LITERAL+ NAMESPACE
UIDPLUS CHILDREN LANGUAGE XSENDER X-NETSCAPE XSERVERINFO AUTH=PLAIN"
default:SearchFormat     (uid=%s)
default:SSLEnable        no
default:VirtualDomainFile /usr/iplanet/server5/mmp-tarpit/vdmap.cfg
default:VirtualDomainDelim @
default:MailHostAttrs    mailHost
default:PreAuth          no
default:CRAMs            no
default:AuthCacheSize    10000
default:AuthCacheTTL     900
default:AuthService      no
default:AuthServiceTTL   0
default:BGMax            10000
default:BGPenalty        2
default:BGMaxBadness     60
default:BGDecay          900
default:BGLinear         no
default:BGExcluded       /usr/iplanet/server5/mmp-tarpit/bgexcl.cfg
default:ConnLimits       0.0.0.0|0.0.0.0:20
default:LdapCacheSize    10000
default:LdapCacheTTL     900
default:HostedDomains    yes
default:DefaultDomain    Siroe.com

```

Messaging Topology のサンプル

ソフトウェアのアンインストール

この付録では、Messaging Server ソフトウェアをアンインストールする手順を説明しています。次のセクションで構成されています。

- アンインストールする理由
- Messaging Server コンポーネントのアンインストール
- HA コンポーネントのアンインストール

アンインストールする理由

ディスク スペースを開ける必要がある場合、または製品を再インストールする場合に、Messaging Server ソフトウェアをマシンから削除します。

注 Messaging Server を削除するには、root としてログインする必要があります。この章に記載されているすべての手順は、特に記載がない限り、システムに root としてアクセスする必要があります。

Messaging Server コンポーネントのアンインストール

このセクションでは、マシンから Messaging Server の既存のインスタンスを削除する方法を説明します。

注 `uninstall` プログラムは、Message Store または Message Access コンポーネントを削除しません。削除する場合は、手動で行なう必要があります。

また、`uninstall` プログラムでは、可用性が高いコンポーネントを削除しません。可用性が高いコンポーネントの削除手順については、105 ページの「HA コンポーネントのアンインストール」を参照してください。

Messaging Server ファイルをインストールしたディレクトリに、`uninstall` プログラムがあります。`uninstall` を実行するには、次の手順に従ってください。

1. `root` としてログインします。
2. Messaging Server インスタンスの停止

サーバインスタンスを停止するには、`stop-msg` ユーティリティを実行します。このユーティリティは、`server-root/msg-instance` ディレクトリに格納されています。例：

```
cd /usr/iplanet/server5/msg-budgie
./stop-msg
```

さまざまなデーモンおよびサービスが停止されるとステータス メッセージが表示されます。

3. `server-root` ディレクトリに移動します。
4. Administration Server インスタンスの停止

Administration Server を実行している場合は、`stop-admin` ユーティリティを実行してこのサーバインスタンスを停止してください。このユーティリティは、`server-root` ディレクトリに格納されています。例：

```
cd /usr/iplanet/server5
./stop-admin
```

注 Directory Server を手動で停止しないでください。`uninstall` プログラムでは、Directory Server が起動して実行していることが必要であり、プログラムで Directory Server のシャットダウンを処理します。

5. `uninstall` プログラムを実行します。

```
./uninstall
```

注 表示される画面は、インストールされているコンポーネントによって異なります。この例では、すべてのコンポーネントがインストールされていると仮定します。

6. 削除するコンポーネントを選択します。

次に示すのは、マシンに現在インストールされている SuiteSpot コンポーネントです。

() 内に番号が付いたコンポーネントは追加のサブコンポーネントを含んでおり、サブコンポーネントは後続の画面で選択できます。

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Applications (5)

アンインストールするコンポーネントを選択してください (デフォルト : all)
[All]:

7. 削除する Serer Core Product コンポーネントを選択します。(Serer は Server の間違いでは?)

次に示すのは、マシンに現在インストールされている Netscape Server Products Core Components コンポーネントです。

() 内に番号が付いたコンポーネントは追加のサブコンポーネントを含んでおり、サブコンポーネントは後続の画面で選択できます。

1. Netscape Server Products Core Components
2. Netscape Core Java クラス
3. Java Runtime Environment

アンインストールするコンポーネントを指定してください [1、2、3]:

8. 削除する Directory Suite コンポーネントを選択します。

次に示すのは、マシンに現在インストールされている Netscape Directory Suite コンポーネントです。

() 内に番号が付いたコンポーネントは追加のサブコンポーネントを含んでおり、サブコンポーネントは後続の画面で選択できます。

1. Netscape Directory Server
2. Netscape Directory Server Console

アンインストールするコンポーネントを指定してください [1、2]:

9. 削除する Administration Services コンポーネントを選択します。

次に示すのは、マシンに現在インストールされている Administration Services コンポーネントです。

() 内に番号が付いたコンポーネントは追加のサブコンポーネントを含んでおり、サブコンポーネントは後続の画面で選択できます。

1. Netscape Administration Server
2. Administration Server Console

アンインストールするコンポーネントを指定してください [1、2]：

10. 削除する iPlanet Messaging Applications コンポーネントを選択します。

次に示すのは、マシンに現在インストールされている iPlanet Messaging Suite コンポーネントです。

() 内に番号が付いたコンポーネントは追加のサブコンポーネントを含んでおり、サブコンポーネントは後続の画面で選択できます。

1. iPlanet Message Store and Message Access
2. iPlanet Internet Message Transport Agent
3. iPlanet Messaging Multiplexor
4. High Availability for iPlanet Messaging Server
5. iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities

アンインストールするコンポーネントを指定してください [1、2、5]：

注意 可用性の高いコンポーネントをインストールしている場合は、手動で削除する必要があります(105 ページの「HA コンポーネントのアンインストール」を参照してください)。オプションとして提供されていますが、可用性の高いコンポーネントの自動アンインストールは現時点ではサポートされていません。このオプションは選択しないでください。

11. Configuration Administrator のログイン ID およびパスワードを入力してください。

次の場所にある Configuration Directory へのアクセス権を持つ管理者のユーザー ID または識別名を入力してください。

```
ldap://budgie.siroe.com:389/
```

Configuration Admin ID または DN: [admin]：

この時点で、uninstall プログラムが、ユーザが指定したコンポーネントのシステムからの削除を開始します。

アンインストールが完了しました。

`uninstall` でインストール ファイルのいくつかを削除できない場合があります。残りのファイルを確認して、手動で削除してください。

注 `uninstall` スクリプトは、オリジナルの `sendmail` リンクを回復しません。サーバ上で `Solaris sendmail` を介してメールを受信する場合は、このリンクを手動で復元する必要があります。

また、`uninstall` で削除されない `Message Store` および `Message Access` コンポーネントを削除する場合は、ここで削除できます。

HA コンポーネントのアンインストール

可用性の高いコンポーネントをアンインストールするには：

1. 前のセクションで説明している通常のアンインストール手順を実行します（「`Messaging Server` コンポーネントのアンインストール」）。
2. 複数のインスタンスがインストールされている場合は、`/etc/msgregistry.inf` ファイルからインスタンス エントリを削除します。それ以外の場合は、両方のノード上の `/etc/msgregistry.inf` ファイルを削除します。

ここからは、`Veritas Cluster Server` または `SunCluster` のどちらをインストールしているかによってアンインストール手順が異なります。次のどちらかの該当するサブセクションを参照してください。

Veritas Cluster Server の可用性の高いコンポーネントのアンインストール

`Veritas Cluster Server` の可用性の高いコンポーネントをアンインストールするには：

1. 両方のノードの `cron` ジョブ テーブルから `dirsync` エントリを削除します。
2. インストール時に作成された `Veritas Cluster Server` リソースすべてを削除します。

3. Veritas Cluster Server を停止して、それ以上のインスタンスが存在しない場合は、両方のノード上の次のファイルを削除します。

```
/etc/VRTSvcs/conf/config/MsgSrvTypes.cf  
/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv/online  
/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv/offline  
/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv/clean  
/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv/monitor  
/opt/VRTSvcs/bin/MsgSrv/sub.pl
```

4. 両方のノードの /etc/VRTSvcs/conf/config/main.cf ファイルから Messaging Server エントリを削除します。

SunCluster の可用性の高いコンポーネントのアンインストール

SunCluster の可用性の高いコンポーネントをアンインストールするには：

1. 次のコマンドを実行します。

```
hareg -u ims50
```

2. 次のコマンドを削除します。

```
/opt/SUNWcluster/ha/msg/ims_common  
/opt/SUNWcluster/ha/msg/ims_fm_probe  
/opt/SUNWcluster/ha/msg/ims_start_net  
/opt/SUNWcluster/ha/msg/ims_stop_net
```

3. 共有ディスク マウント ポイント ディレクトリ (例えば、共有ディスクが /mnt ディレクトリの下にマウントされている場合は /mnt) から ims_ha.cnf ファイルを削除します。

索引

記号

/etc/resolv.conf ファイル 15

A

Administration Domain 名 36

Administration Services

製品 17

Administration Server Console 17

Netscape Administration Server 17

AService.rc スクリプト 18, 96

C

Configuration Directory Server の選択 24

Configuration Server

選択 24

configutil コマンド 86

D

Delegated Administration Server のホスト名とポート
49

Directory Server

Configuration Directory Server の選択 24

Users/Groups Directory Server の選択 25

既存の Directory Server の構成 24

dispatcher.cnf ファイル 86

domainname コマンド 15

E

Enterprise Server

インストール可能な場所 21

H

hareg コマンド 84

HA コンポーネントのアンインストール 105

hostname コマンド 15

I

ims_dssetup 21, 24

ims_dssetup ユーティリティ 25

質問事項 26

手順 69

ims_ha.cnf file 84

ims_ha.cnf ファイル 106

install.inf ファイル 28

iPlanet 18

- iPlanet Messaging Applications
 - High Availability 19
 - iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities (CLIs) 19
 - iPlanet Message Transport Agent (MTA) 18
 - iPlanet Messaging Multiplexor (MMP) 18

J

- job_controller.cnf ファイル 86

L

- LICENSE.txt ファイル 30
- local.ldapsiecred 92
- local.ldapsiedn 92

M

- Messaging 18
- Messaging Server
 - インストール可能な場所 21
 - サポートされているプラットフォーム 15
- Messaging Server のデフォルト ドメイン 48
- Messaging Server のデフォルト組織 48
- Messaging Server のマニュアル 12
- Messaging Suite
 - 概要グラフィック 20
- Messaging Server アーカイブ ファイル
 - 内容の展開 57
- Messenger Express アクセス
 - 要件 15
- MMP 18
 - AService.cfg ファイル 88
 - AService.rc ファイル 89
 - ImapProxyAService.cfg ファイル 88
 - PopProxyAService.cfg ファイル 88
 - インストール後の手順 92
 - インストール前のチェックリスト 88

- 開始方法 18, 96
- 既存のインスタンスの変更 96
- サンプル トポロジ 96
- 追加インスタンスの作成 95
- MsgSvrType 構成ファイル 81
- MTA 18
- Multiplexor
 - ImapMMP.config 88
 - インストール (Unix) 87

N

- Netscape Administration Server 4.2 21
- Netscape Delegated Administrator 4.5 21
- Netscape Directory Server 4.12 21
- Netscape Directory Suite
 - 製品 17
 - Netscape Directory Server 17
 - Netscape Directory Server Console 17
- Netscape Enterprise Server 4.1 21
- Netscape Messenger Express
 - 推奨ブラウザ 15
- Netscape Server Core
 - 製品 16
 - Java Runtime Environment 16
 - Netscape Core Java クラス 16
 - Netscape Server Product Core コンポーネント 16

P

- postmaster 52
- postmaster アカウント 52

S

- scconf コマンド 84
- sendmail 21
- serverID 40, 47

server-root
説明 15
slapd.conf ファイル 86
stop-admin ユーティリティ 102
stop-msg ユーティリティ 102
SunCluster 19

T

TCP/IP ポート番号
IMAP 51
Messenger Express 51
POP3 51
SMTP 51
tcpclnt バイナリ ファイル 83

U

Users/Groups Directory Server の選択 25

V

Veritas Cluster Server 19, 78

あ

アンインストール
Messaging Server をアンインストールする理由
101
手順 102
アンインストール プログラム 102

い

インスタンス 40, 47

インストール
タイプ 27
インストールのタイプ 27
一般的なインストール(「一般的なインストール」を参照)27
カスタム インストール(「カスタム インストール」を参照)28
サイレント インストール 28
インストール ファイル
インストール先マシンへの転送 57
インストール ファイルの転送 57
インストール ファイルをインストール先マシンに転送する 57
インストール プロセスの概要 23
インストール前のチェックリスト 56

き

既存の Directory Server の構成 24
既存のデータの移行 8

く

クラスタ エージェント 77

こ

高可用性
iMS5 サービス グループ 79
logical_IP リソース 79
mail リソース 81
mountshared リソース 79
SunCluster に対するインストール後の手順 84
Veritas Cluster Server に対するインストール後の手順 80
Veritas Cluster Server 用の構成 81
アンインストール 105
依存性ツリー 79
インストール前の手順 78, 83

クラスタ エージェント 77

構成パラメータ

MonitorInterval 82

MonitorTimeoutl 82

OnlineRetryLimit 82

OnlineWaitLimit 82

RestartLimit 82

ネットワーク リソース 79

複数メッセージ送信サーバ

IMAP/POP3 サーバの IP アドレスのバインド
86

LDAP サービスの IP アドレスのバインド 86

SMTP_SUBMIT サービスの IP アドレスのバ
インド 86

SMTP サービスの IP アドレスのバインド 86

デフォルトの tcp_port の変更 86

複数メッセージ送信サーバインスタンス 85

高可用性モデル 71

N + 1 74

システム停止時間の計算 76

対称 73

比較 76

非対称 72

さ

サーバインスタンス 40, 47

サイレント インストール

インストール手順 68

し

システム要件

ソフトウェア 15

ハードウェア 14

せ

セットアップ プログラム 23, 56

そ

ソフトウェア要件 15

は

ハードウェア要件 14

ふ

ファイアウォール

スマート ホスト 50

ほ

ポート

カスタム インストールの使用 28

デフォルト番号の使用 15

本書で使用されている規則 10

ま

マニュアル

Messaging Server のマニュアルの参照先 12

ら

ライセンス同意書 30

ろ

論理ホスト タイムアウト

変更方法 84